

国立国会図書館所蔵江戸期以前紀行

写本・版本目録稿

田 口 栄 一
小 泉 清 子

目 次	武蔵国……………35
凡 例…………… 2	江 戸……………36
〈全 国〉…………… 4	江戸一近郊……………37
〈東 国〉…………… 7	相模国……………38
〈西 国〉……………20	江島・鎌倉……………39
〈蝦 夷〉……………23	箱 根……………40
〈東北地方〉……………25	〈東海地方〉……………40
東北地方諸国にわたるもの……………25	富士山……………40
陸奥国……………26	伊豆国……………41
出羽国……………26	熱 海……………42
陸中国……………27	七 島……………42
陸前国……………28	駿河国……………43
塩釜・松島……………28	三河国……………43
岩代国……………29	飛騨国……………43
〈関東地方〉……………29	美濃国……………43
関東地方諸国にわたるもの……………29	尾張国……………44
常陸国……………31	〈北陸・甲信越地方〉……………44
鹿 島……………32	北陸・甲信越地方諸国に
下総国……………32	わたるもの……………44
香 取……………32	甲斐国……………44
安房国……………32	信濃国……………45
下野国……………33	善光寺……………46
日 光……………33	越後国……………46
上野国……………34	越中国……………46
草 津……………34	能登国……………46
伊香保……………35	加賀国……………46
	〈近畿地方〉……………46

近畿地方諸国にわたるもの	46	因幡国	59
伊勢国	49	出雲国	59
伊勢大神宮	50	石見国	59
紀伊国	51	備中国	60
高野山	51	備後国	60
熊野	51	安芸国	60
近江国	52	嚴島	60
石山	52	長門国	60
山城国	53	〈四国地方〉	61
京都	53	阿波国	61
大原	54	伊予国	61
嵯峨	54	土佐国	61
丹後国	54	〈九州地方〉	62
但馬国	54	九州地方諸国にわたるもの	62
播磨国	55	豊前国	63
摂津国	55	肥前国	63
有馬	55	長崎	64
住吉	56	肥後国	64
河内国	56	薩摩国	64
大和国	56	〈外国〉	64
吉野	57	樺太等	64
長谷	58	中国	65
〈中国地方〉	58	米国	65
中国地方諸国にわたるもの	58	欧州	65
伯耆国	59	露国	66

凡 例

- ここに収録したのは、昭和53年12月末日現在当館で所蔵する紀行図書の内、江戸期以前に成立した国書で写本・版本からなるものである。ただし、若干明治以降に写されたり刊行されたものも含んでいる。国内旅行のものを採録することを原則としたが、作業中に記録した外国旅行のものも加えた。
- 単行書を主目的としたが代表的と思わ

れる叢書類からもとった。この場合2～3丁程度のもので除いたものもある。なお、個人の文集類からはほとんどとらなかった。

- 紀行図書の定義は、河出書房刊『日本歴史大辞典』の紀行の項によった。しかし、実際の選別の作業に当っては、当館をはじめとする各図書館の蔵書目録類、『国書解題』、『国書総目録』、地誌・紀行関係図書目録類を参考とし、それらに紀行図書として指定されているものはほとんど収録した。地誌との区別が特に困難

であったがそれらの図書を総点検し、担当者の主観で選別した。又書名中に紀行とあるものはほとんどとった。紀行図書の範囲をやや広げて詩歌・俳句等を中心としたものや絵を主としたものも若干とった。特定の紀行図書から必要部分を抄出して、同一書名又は別書名を付して地誌、道中記、葉草所在帳等に仕立たものがあるが、これらは本来紀行図書とはいわないが、ここでは一応とることとした。

4 地域分類に当っては街道にそった国別の編成とすることが一般的であるが、本稿では全国（東西に渡る広範囲の行動をとったもの）、東国（京都から東側での広い行動が主であるもの）、西国（京都から西側での広い行動が主であるもの）、蝦夷から九州の各地方、地方の内は旧国名、旧国名の内は著名の地名に分けた。羽後、羽前は出羽国とした。本来は、足跡を残した地域、地名に幾つも重出すべきであるが、紙面の都合もあり一箇所だけにしか掲出しなかった。したがって、例えば鎌倉は全国、東国、東海道、伊豆、箱根等への道すがら、ほとんど立寄っており、その方面の図書も調査する必要がある。他の地域や地点を調査する場合も同様の事情にあることを留意されたい。

5 図書の記述は、原本に従い書名、次に原則として請求記号、編著者名、出版元等、成立年、刊・写年、版本、写本の別、本の大きさ、注記の順とした。

6 書名は原本に従い、読み方は『国書総目録』を参考とした。

7 編著者は原本によったが記載のないものは、蔵書目録類や『国書総目録』により補記したものもある。

8 出版元は2名迄はそのまま、3名以上は1名の名のみあげ、それに等を付して

記した。

9 刊年の記載がない場合で序文、跋文、識語等に年のあるものは記した。成立年が確認できない場合『国書総目録』によって年の次に小字で「成、を付した。写本、版本の別は、写、刊とした。

10 図書の大きさは、大、中、小で表し、大は美濃版以上、中は半紙版、美濃版小さい、小はそれ以下とした。横本は、上記に準じて記した。

11 内容紹介は、蔵書目録、『国書解題』、地誌・紀行関係図書目録等に記載されているものを参考とした。書名から目的や行先の判明するもの等で一部省略したものや、又簡単な記載にとどめたものもあるが、これらは決して内容的に劣るものではない事をおことわりしておく。

12 同一地域内の排列は現代かなづかいによる書名の五十音順とした。ただし、異名同本は前後に排列した。

13 冊数は2冊以上のものだけ記した。合冊されているものは、3冊（合1冊）の如くに記した。

14 〈 〉内は請求記号を示す。YDの記号はマイクロフィルムの番号である。

15 書名・著者名等の漢字は、当用漢字に直すことを原則とした。

16 巻末に現代かなづかいによる五十音順書名索引および著者名索引を付した。数字は頁数を示す。

〈全国〉

あずま
東貝

〈915.5-Ku869a〉

(栗本) 玉屑 京都 勝田喜右衛門
等 寛政12刊 大 [一名『阿都満
珂比』近畿, 東海道, 関東, 奥羽,
北陸等の記]

詠草

〈915.5-N568e〉

中島広足 天保2写 手稿本 小
〔江戸から九州への紀行〕

神の御蔭の日記

〈239-35〉

藤井高尚 寛政10成 刊 2冊 中
〔備中から江戸〕

き あんぎんそう
帰鞍吟艸

〈104-44〉

神屋 享(筑陽・立軒) 筑前府
申立軒蔵版 享保7刊 2冊(合1
冊) 大 [宝永年中東武から筑前へ
帰る折の漢詩文紀行]

き か
帰家日記

〈わ081-9〉

井上通女 写 (『中古叢書』92冊の
内) [元禄2年江戸から讃岐丸亀へ
帰る折の紀行]

き
崎陽行稿

〈鶺鴒557〉

伊沢信恬(蘭軒) 文化3写 中
〔江戸から長崎への漢文紀行〕

こうご
甲午御紀行

〔わ218-2〕

山内豊雍 写 (『土佐国群書類従』
巻101, 121冊の内)
〔安永3年土佐から江戸へ至る〕

こうし
高子観遊記

〈139-26〉

深見作左衛門著 新井白石序 写
大 [霧島山, 不知火, 阿蘇山, 富
士岳に遊ぶ漢文紀行]

こはる
小春日記

〈126-251〉

三宅興道 (『鳴門日記』の内)
〔天明年中阿波岡崎の浦から播州舞
子浜へ出, 大阪を経て東海道を江戸
へ帰る折の日記〕

西遊旅譚

〈104-51〉

司馬江漢 天明8成 寛政2刊 5
冊(合2冊) 大 [江戸から長崎・
博多等へ至る紀行]

同 上

〈特7-158〉

江戸 鴨伊兵衛 享和3刊 5冊
大

図画西遊譚

〈125-82〉

司馬江漢 江戸 鴨伊兵衛 享和3
刊 5巻(合1冊) 大 前書と同
内容

西遊旅中日記

〈235-222〉

湖面堂主人 写 2冊 中 [文化
11年江戸から木曾街道を經, 伊勢,
大和, 紀伊の寺に詣で海路讃岐金毘
羅に赴き, 帰途播磨, 京都を過ぎ東
海道から帰れる紀行。和歌・俳句が
多くよみ込まれている]

さむしろ
小菴日記

〈847-230〉

南海散人珊禾 京 錢屋七郎兵衛
刊 大 [宝永元年讃岐から東海道を
を経て江戸へ至る]

山道行記

〈141-68〉

松井可楽 備前岡山 中野孫左衛門
宝永3刊 大 〔武蔵板橋から東山
道を経て備前西川へ帰る詩集〕

しほ
紙魚日記 (190-332)

風律 (多賀庵) 京 額田正三郎
明和元刊 中 〔明和元年8月郷里
広島を出て京、伊勢、田子の浦、美
濃、近江、京から10月大阪へ至るま
での俳諧紀行〕

拾遺意行集 (166-281)
宮川道達 (一翠子) 永原屋孫兵衛
昌陽軒蔵板 元禄元刊 大
上巻『嚴島詣之記』『南遊葉』
下巻『吉野詣記』『乙巳行記』『会
津山水記』

じゅうじゅう けい
十住心院心敬紀行 (197-185)

釈 心敬撰 文明3成 貞享3写
中 〔関西から関東〕

心敬紀行 (辰-44)
写 〔『三十幅』第56冊、百和香巻13
の内〕 前書と同内容

諸国奇談漫遊記 (197-172)
昌東舎真風 文化3刊 3冊 (合1
冊) 大 内題は周遊奇談

諸国採葉記 (特1-2096)
植村政勝 写 中

同上 (特7-390)
寛政2写 5冊 中

同上 (特1-659)
明治43写 大

諸国採葉帳 (特1-457)
松井重康 明治35写 大 『諸国採
葉日記』の写

諸州奇蹟談 (189-246)
植村治政 写 2冊 (合1冊) 中
〔採葉の為諸国を廻れる折に見聞せ
る奇事を輯む〕

諸州巡覧記 (291.09-Ka183s)
貝原益軒 洛陽 茨木多左衛門 刊
7冊 中 1・2巻『西北紀行』上・
下, 3~5巻『南遊紀行』上・中・
下, 6・7巻『続諸州めぐり』

同上 (238-1)
写 〔『鶯宿雑記』374の内〕

諸州めぐり (182-49)
貝原益軒 京都 丸屋善兵衛 刊
7冊 小 1巻 山城西部、丹波、
丹後、2巻 若狭、西近江 3巻
山城、河内、和泉、4巻 紀伊 5
巻 大和 6巻 美濃関原至越前敦
賀、7巻 撰津島上至播磨室 〔道
中案内記〕

すがすが
清々日記 (107-341)
東条春枝 文久元序 写 中 〔江
戸から長崎へ至る紀行〕

旅日記 (186-66)
文化13成 写 3冊 小 〔江戸か
ら東海道を京に入り撰津、播磨を経
て讃岐より安芸、周防に至り、帰路
丹波、丹後を過ぎ京に出、中山道を
江戸へ帰る〕

- ちよくこ
陟謁日録 〈わ081-4〉
 佐藤 坦（一斎） 写（『明遠館叢書』38冊の内）〔文化8年韓国聘使來朝の節接見のため、林述斎が江戸から津島へ赴ける折の日記に付て作文せるもの〕
- 露の朝顔** 〈830-109〉
 横山桂子 稿本 5冊 中 露の朝顔、旅路の花、蘆の葉風、在明の月、東のつと等を収める〔和歌・紀行〕
- 東西遊記** 〈145-144〉
 橘 春暉（南谿） 京都 著屋儀兵衛等 寛政7—10 刊 20冊（合10冊） 中 『東遊記』5巻、後篇5巻、『西遊記』5巻、続篇5巻〔諸国巡遊中に見聞した奇観異聞、人情風俗、気候、産物等の同異を詳細に記す〕
- 同 上** 〈915.5-Ta944t〉
 江戸末期写 5冊
- 東西遊雑記** 〈110-87〉
 古河 辰（古松軒） 天明8自序 写 15冊 大〔『東遊雑記』と『西遊雑記』を合本したもの〕
- 徳永種久紀行** 〈213-422〉
 徳永種久 柳亭種彦蔵本からの写 大〔元和3年筑後柳川から京、大阪を経て江戸へ至れる紀行〕
- 日本行脚文集** 〈201-26〉
 大淀三千風 元禄3刊 7冊 大
 〔天和3年仙台から北陸道を経て故郷伊勢への旅を始めとし南海、山陽、九州、山陰、四国、東海の全国を巡歴して元禄2年伊勢に帰るまでの前後7年間全行程3,800余里の俳諧紀行〕
- 同 上** 〈141-70〉
 刊 5冊（2冊欠本） 大
- ほん
榮游余録 〈わ915.5-1〉
 吉田桃樹（鯨岐） 稿本 2冊 大
 〔天明8年から寛政12年の間江戸から伊勢、大和、四国、中国地方を廻りたる紀行〕
- 同 上** 〈830-201〉
 稿本 7冊 大
- 同 上** 〈213-330〉
 写 6冊 大
- 榮游余録次篇** 〈839-94〉
 写 大
- ひとよはな** 〈228-37〉
 海量 天明元自序 大阪 河内屋茂兵衛等 文政2刊 中〔五畿内から嵐山、琵琶湖、塩釜、立山、鳴門、博多等を廻れる和歌紀行〕
- 真淵紀行** 〈237-215〉
 賀茂真淵 写 中〔『道行ぶり』『西帰』の2種を収める〕
- 漫游文集** 〈183-159〉
 平沢元愷（旭山） 明治年間刊 東京 万笈閣 3冊 小〔各地漢文紀行集〕

漫遊文草 〈鶯3485〉

平沢元愷(旭山) 明治年間刊 東京 万笈閣 弘化4序 3冊 小題簽 漫遊文集 前書と同内容

妙海道の記 〈836-26〉

釈 妙海 写 26巻 10冊 中 第1~3巻 都のつと, 第4~8巻 伊勢路の日記, 第9~11巻 奥の家つと, 第12~13巻 越の雪踏, 第14巻 越路の月見, 第15~16巻 都の追つと, 第17~19巻 紀路の日記 第20~22巻 播磨路日記 第23~26巻 奥の追つと
〔安政, 慶応年間の紀行〕

遊記類纂 〈103-87〉

明治19年脱稿 写 2冊 中 〔荻生徂来の『峡中紀行』等諸家の諸国漢文紀行29篇を収める〕

遊囊臈記 〈198-15〉

大郷良則(信斎) 享和元成 写 50冊(合25冊) 大 巻1~3 武蔵, 巻4~6 東海道, 巻7 伊勢, 志摩, 紀伊 巻8 紀伊, 摂津 巻9 摂津, 山城, 巻10 摂津, 播磨, 備前 巻11 備中, 備後, 安芸, 周防, 長門, 巻12 豊前, 豊後, 日向, 薩摩, 巻13 薩摩, 大隅, 肥後, 肥前, 巻14 肥前, 筑後, 筑前 巻15 筑前, 長門, 周防, 安芸, 讃岐, 備中, 播磨, 淡路, 和泉, 山城 巻16 山城, 大和, 巻17 大和, 巻18 大和, 山城, 近江, 巻19 山城, 近江, 巻20 近江, 美濃, 尾張, 三河, 遠江, 武蔵, 相模, 巻21 武蔵, 甲斐, 相模, 伊豆, 巻22 武蔵, 下野, 上野, 巻23 越前, 加

賀, 巻24 加賀, 越中, 越後, 下野, 下総, 陸奥 巻25 越前, 近江, 信濃, 武蔵, 相模

遊囊日録 〈102-64〉

海老名綱(翹斎) 江戸 須原屋源助等 文政4成 天保6刊 2冊 大 〔江戸から京を経て四国へ至る漢文紀行〕

有方録 〈わ081-4〉

広瀬 典(蒙斎) 写 〔『明遠館叢書』第30~32巻の内〕 〔著者が林大学の命に依り谷文晁と共に京畿へ入り帰途更に南陽, 西海, 四国の諸州を歴遊して江戸へ帰りし折の記〕

往来芝 〈127-53〉

樺島公礼(石梁) 尚友舎藏版 嘉永5刊 大 〔文化13年の久留米—江戸間往復の記〕

理齋旅日記 〈104-328〉

志賀 忍(理齋) 寛政11成 写 中 〔寛政10年江戸から長崎へ至る紀行〕

理齋帰路旅日記 〈112-119〉

志賀 忍(理齋) 寛政12成 写 大 〔長崎から江戸へ帰る折の紀行, 前書と対になって往復紀行となる〕

〈東国〉

麻衣 〈183-384〉

西田直養 写 〔『不忍叢書』第4冊の内〕

東紀行 〈249-224〉

- 原 道一（黙齋） 文政12識 写
中〔京から奥州松島往復の日記に
して和歌等をよみこんでいる〕
- 歌詩入 吾妻紀行 〈181-76〉
（谷口）重以 京都 万屋喜兵衛藏
版 元禄13刊 3冊（合1冊） 中
〔師宣風の絵入，京から江戸へ達せ
るもの〕
- 東路廻記 〈915.5-Su695u〉
文政7写 中〔香川景樹の東への
紀行を門人が写記したもの〕
- 東路のつと 〈238-1〉
宗長 写（『鶯宿雑記』235の内）
〔駿河国丸子の庵を永正6年出立，
東海道を経て関東各地を歴遊せる折
の記〕
- 東の記行 〈わ918-2〉
（雛屋）立圃 写（『扶桑残葉集』
第12冊の内）〔東海道を下る記，
俳句多し〕
- 東の記行 〈わ918-1〉
（西山）宗因 写（『今古残葉』第
20冊の内）〔奥州から江戸へ赴く記，
俳句多し〕
- 同 上 〈わ918-2〉
写（『扶桑残葉集』第12冊の内）
- 吾妻の都登 〈110-124〉〈196-71〉
西浦祐賢 大阪 扇屋利助等 文化
9刊 2冊（合1冊） 大〔大阪
から東海道を江戸へ，帰路中山道を
経て戻る。和歌をよみこむ〕
- あつまの道記 〈124-9〉
烏丸光広 元和4成 写（『日光山
紀行』の内）〔京から東海道を江戸
へ下る〕
- 同 上 〈138-23〉〈子-4〉
写（『扶桑拾葉集』巻28の内）
- あつまの道の記 〈わ918-2〉
（仁和寺僧正）尊海 天文2年頃成
写（『扶桑残葉集』第4冊の内）
〔京から近江，美濃，尾張，三河，
遠江を経て駿河富士に詣しもの〕
- 同 上 〈238-1〉
写（『鶯宿雑記』234の内）
- 同 上 〈わ918-1〉
写（『今古残葉』第8冊の内）
- 尊海僧正紀行 〈127-1〉
刊（『群書類従』巻339，175冊の内）
前書と同内容
- 吾妻道記 〈196-171〉
釈 堯恵 元禄7写 大〔文明17
年の北陸，上野，下野，相武への紀
行，多くの歌をよみ込む〕
- 北国記行 〈857-132〉
堯恵 写 大 前書と同内容
- 北国紀行 〈138-70〉
写 大 前書と同内容
- 同 上 〈127-1〉
刊（『群書類従』巻336，173冊の内）

吾妻の道の記 <138-23> <子-4>
豊臣勝俊(木下長嘯子) 天正18成
写(『扶桑拾葉集』巻29中の内)

^{あづま}吾嬬路記 <183-299>
貝原益軒, 谷 重遠著 京都 柳枝
軒篇刊 享保6刊 小 [京から江
戸へ至る紀行, 益軒の『吾妻日記』
と谷重遠の『東遊草』とを潤色合巻
したもの]

あつまめくり <わ081-10>
写(『燕石十種』第38冊の内) [奥
州忍ノ岡から江戸へ至る記]

いほぬし <238-1>
釈 増基 写(『鶯宿雑記』228の
内) [熊野・遠江等への紀行]

同 上 <127-1>
刊(『群書類従』巻327, 169冊の内)

熊野紀行 <124-230>
写(『桜園叢書』巻30の内) 前書
と同内容

同 上 <138-23> <子-4>
写(『扶桑拾葉集』巻3の内)

十六夜日記 <197-26>
阿仏尼 洛陽 林 和泉 万治2刊
2冊(合1冊) 中 [京から東海
道を経て鎌倉へ至る]

同 上 <140-239>
近世写本 中

同 上 <127-1>

刊(『群書類従』巻332, 171冊の内)

同 上 <138-23> <子-4>
写(『扶桑拾葉集』巻12の内)

いざよひの日記 <915.44-ih>
洛陽 林 和泉 万治2刊 2冊
大 前書と同内容

阿仏尼東くたり <ち-7>
写(『輪池叢書』第34の内) 前書と
同内容

阿仏尼海道記 <わ081-2>
写(『書記群類』第3冊の内) 前
書と同内容

^{いしご}乙巳行記 <166-281>
平岩仙桂 刊(『拾遺意行集』の内)
[京から東海道を江戸へ下る漢文紀
行]

^う羽相紀事 <107-146>
星 千之 嘉永4成 写 中 [出
羽へ出張の際の紀行で書中に和歌多
し]

転寝記 <127-1>
阿仏尼 刊(『群書類従』巻331,
171冊の内) 大 [京から遠江へ至
る往復の記, 歌を多くよみ入れてい
る]

うたたねの記 <238-1>
写(『鶯宿雑記』231の内) 前書と
同内容

同 上 <138-23> <子-4>
写(『扶桑拾葉集』巻12の内)

打出の浜の日記 〈146-20〉

烏丸光栄 延享4年烏丸家本からの
写〔延享3年京・江戸間往復の日
記。往は東海道、帰りは中山道を経
る〕

関東道の記 〈わ918-1〉

烏丸光栄 写〔『今古残葉』第32冊
の内〕 前書と同内容

むまやつたひ 〈111-25〉

写 中〔文政5年の東海道の紀行〕

雲遊後録 〈183-311〉〈鶺177〉

関 龔(赤城) 江戸 須原屋茂兵
衛 懐風館蔵版 享和元刊 3冊
(合1冊)(鶺177は巻1のみ) 小
〔北陸及び木曾街道の漢文紀行〕

雲遊文蔚 〈141-92〉〈鶺178〉

墨庵(大任) 江戸 須原屋茂兵衛
享和2刊 5冊(合2冊) 大付
『神道契』〔江戸から近畿地方へ
の漢詩文紀行〕

亦奇録 〈183-309〉〈鶺224〉

小原忠寛(鉄心) 慶応3刊 3冊
(合1冊) 小〔慶応2年美濃大
垣から江戸へ至る漢文紀行〕

遠遊紀行 〈237-273〉

山崎 嘉(闇斎) 明暦4跋 刊
大〔明暦4年京から東海道を経て
江戸へ至る漢文紀行〕

同上 〈鶺1877〉

刊〔『垂加草』4巻の上の内〕

笈の小文 〈188-121〉

松尾芭蕉 京 井筒屋庄兵衛、井筒
屋宇兵衛 宝永6刊 中〔貞享4
年江戸を立ち鳴海、伊勢、吉野、高
野山、和歌浦、奈良、大阪、須磨、
明石を遊覧した折の俳諧紀行〕

笈の若葉 〈107-205〉

(摩詰庵) 雲鈴 正徳5刊 中
〔雲鈴が越後高田から涼菟を伊勢へ
送って近江に至る句日記に諸家の四
季発句、連句を添えたもの〕

おくの細道 〈103-158〉

松尾芭蕉 京 浦井徳右衛門等 文
政5刊 3冊(合1冊) 中

同上 〈わ915.5-5〉

刊 小

同上 〈138-68〉

東京 松崎半造 其角堂蔵版 明治
18刊 大

奥の細道 〈120-87〉

文化12刊〔『芭蕉翁七書』の内〕

小野蘭山先生採葉志 〈特1-2171〉

小野蘭山 写 中

おもひのままの日記補遺 〈831-71〉

高橋仙果 稿本 中〔東海道を大
井川から江戸へ〕

尾張某君侯随従旅日記 〈124-230〉

惟馨 写〔『桜園叢書』巻73の内〕
〔江戸から東海道を尾張へ〕

改元記行 〈111-31〉
大田南畝 享和元成 写 2冊 大
〔江戸から東海道を大阪へ至る〕

改元紀行 〈847-92〉
写 大 題簽には「蜀山人改元紀
行」とあり

廻国雑記 〈127-1〉
道輿 刊 (『群書類従』巻337, 174
冊の内) 〔文明18年京から北陸、
関東、東北地方への紀行〕

同上 〈145-150〉
刊 5冊 (合3冊) 中 表紙に宗
祇廻国記とあり

同上 〈238-1〉
写 (『鶯宿雑記』233の内)

海道記 〈わ915.4-2〉
源 光行 刊 (『群書類従』巻330)
〔貞応2年京都から鎌倉へ赴ける紀
行、歌を多くよみ入れている〕

同上 〈127-1〉
刊 (『群書類従』巻330, 170冊の内)

鹿島立、一日記 〈別4-16〉
鬼沢大海 自筆本 大 〔鹿島から
東海道を經て伊勢、奈良、長谷、吉
野、京等を廻り帰路中山道を戻る〕

霞の友 〈238-1〉
松平定信 写 (『鶯宿雑記』345の
内) 〔安永5年江戸から奥州白河
への紀行〕

蒲生氏郷紀行 〈127-1〉
蒲生氏郷 刊 (『群書類従』巻339,
175冊の内) 〔天正20年奥州から中山
道を經て京へ至る〕

鴨長明海道記 〈857-74〉
鴨 長明 飯田忠兵衛 寛文4刊
2冊 大 〔京から鎌倉へ赴きたる
道の記〕

同上 〈915.45-Ka321〉
東都 須原屋市兵衛、西村源六 寛
政元刊 2冊 中

鴨長明海道之記 〈238-1〉
写 (『鶯宿雑記』別録37の内)

長明道記 〈200-77〉
鴨 長明 飯田忠兵衛 天保5刊
大 前書と同内容

同上 〈139-156〉
写 大

雁かね日記 〈140-85〉
三河口太忠 (海若子) 松濤舎藏版
天保9刊 2冊 (合1冊) 大
〔相模、伊豆、駿河の紀行〕

狂歌かはころもの記 〈104-160〉
鉄格子波丸著 中井藍江、丹羽桃溪
画 大阪 河内屋太助等 文化5刊
2冊 (合1冊) 大 〔東海道及び
奥州漫遊の記〕

河内降登の記 〈228-221〉
英 清 安政6成 写 3冊 (合1
冊) 大 〔天保9年往路中山道、

- 帰路東海道を経て江戸・河内間を往復の記)
- 関東海道記 〈138-23〉〈子-4〉
源 通村 元和8成写 (『扶桑拾葉集』巻30の内) [京から江戸へ至る]
- 関東海道記 〈138-23〉〈子-4〉
藤原(飛鳥井)雅康 写 (『扶桑拾葉集』巻22の内) [明応8年京から小夜中山往復の紀行]
- 富士歴覧記 〈127-1〉
藤原(飛鳥井)雅康 刊 (『群書類従』巻335, 173冊の内) 前書と同内容
- 帰献録 〈鸚3075〉
上甲礼 写 (『西游記程』の内)
〔天保11年江戸から甲州經由富士を見るの記〕
- 紀行右よし野 〈189-180〉
猶 貫 写 中 絵入り [浪華から大津に出、木曾街道を日光に詣てついで江戸へ遊び、東海道を帰路につく]
- きさらぎ紀行 〈863-179〉
傘露 安永4刊 中 [播磨から江戸への俳諧紀行]
- 岐蘇紀行 〈183-159〉
平沢元愷(旭山) 刊 (『漫遊文集』第1冊の内) [大阪から木曾街道を江戸へ至る漢文紀行]
- 木曾路記行 〈831-54〉
鶴眠堂 稿本 大 [近江草津から関ヶ原、美濃細久手を経て木曾街道を越後二本へ至る]
- 木曾路之記 〈特1-2805〉
貝原益軒 正徳3初刊 京 茨木多左衛門 宝永6刊 小 [道中案内記にちかし]
- 紀行 木曾の麻衣 〈166-221〉
立羽不角著 遊画斎偶伯画 享保15刊 7冊(合3冊) 中 [享保15年不角が法眼の官位受領のため江戸から木曾街道を京へ赴る俳諧紀行]
- 木曾の紀行 〈134-272〉
文化7写 中 [文化2年江戸から木曾街道を京へ至る]
- 癸未紀行 〈110-84〉
林 信勝(羅山) 風月宗智 正保2刊 大 [寛永20年10月江戸から京への漢文紀行]
- 驥忘日記 〈107-291〉
河崎良佐(敬軒)著 山本 珏編 大阪 藤屋弥兵衛等 文政3刊 中 [文化12年菅茶山を送りつつ江戸から東海道を伊勢へ帰る漢詩文紀行]
- 杏庵紀行 〈211-143〉
堀 正意(杏庵) 写 中 [『無題』(尾張から三島へ至る)『東行日録』(尾張から戸塚へ至る)『帰尾日記』(江戸から尾張へ至る)『中山日記』(尾張から中山道を日光へ至る)の4編からなる]

狂歌旅枕

〈別図 京-158〉〈YD1-205〉

野々村信武詠 菱川師宣画 江戸
おやぢ橋本問屋 酒田屋 天和2刊
2冊(合1冊) 中

草まくら

〈237-362〉

石川雅望 写 2冊 大〔文化元年
江戸から近江日野辺への往復の記〕

けんざん

堅山難場道中記

〈182-184〉

写 小〔万延元年江戸から甲州街
道を身延山, 秋葉山, 豊川稲荷へ詣
で更に鎌倉, 江ノ島を見物して戻る
日記〕

元和七年九月紀行

〈111-89〉

写 大〔江戸から東海道を京へ至
る紀行〕

こうし

庚子道の記

〈915.5-Ta593k〉〈132-113〉

(白拍子) 武女著 清水浜臣注 江
戸 小林新兵衛, 英平吉 文化6刊
大〔尾張から江戸へ至る〕

こうしん

甲申旅日記

〈111-32〉

小笠原長保 写 大〔文政7年江
戸から相模, 伊豆への紀行〕

こうすん

甲駿道中記

〈245-207〉

吉田兼信 写 小〔文政13年の紀
行〕

こまん

故園紀行

〈鶉1021〉

立川 伸 写 小〔江戸から故郷
尾張への漢文紀行〕

五山駅程見聞雑記

〈101-97〉

林奎文房著 小林百枝写 嘉永元写
2冊(合1冊) 大〔江戸から掛
川へ赴けるもの。特に富士山に関す
る記事が最も詳しく絵が秀逸〕

こしの山婦美

〈214-38〉

真龍院(加賀宰相室) 嘉永2写
中〔天保9年江戸から金沢への紀
行〕

御上京道記

〈別図412-36〉

石川尚顕 写 横長大本 絵入
〔文久3年藩主上洛に供奉の記〕

さいき

西帰

〈237-215〉

賀茂真淵(『真淵紀行』の内)〔京
から遠江〕

西上記

〈209-633〉

中井積善(竹山) 写 中〔安永
元年江戸から京へ赴く漢文紀行〕

同上

〈104-182〉

刊(『東征稿』附録)

同上

〈鶉1938〉

写 中

再遊紀行

〈106-141〉

山崎闇斎(嘉) 京 武村市兵衛
万治2成 大〔江戸へ再遊した折
の漢文紀行〕

同上

〈鶉1877〉

刊(『垂加草』4の下の内)

西遊紀行別録 (103-108)

熊坂定邦 (台州) 寛政4成 写 (抜萃) 中 [東国から京への漢詩文紀行]

西遊紀程 (106-100) <111-47>

大槻清崇 (磐溪) 江戸 山城屋佐兵衛等 天保2成 2冊 (合1冊) 大付『瓊浦筆語』・『磐溪詩稿』 [江戸から京, 大阪, 奈良, 吉野等への漢詩文紀行]

同上 <鶉3075/3>

上巻のみ 写 付『帰献録』

さらしな日記 (138-23) <子-4>

菅原孝標女 写 (『扶桑拾葉集』巻6の内)

同上 <127-1>

刊 (『群書類従』巻328, 169冊の内)

更級日記 <101-31>

近世後期写 大

出京記 <229-20>

米良 倉 (東嶠) 写 (『使崎墨録』の内) [京から中山道, 甲州街道を経て江戸へ至る]

しょうこう 正広日記 <127-1>

釈 正広 刊 (『群書類従』巻336, 173冊の内) [文明5年大和泊瀬から駿河へ至る紀行, 富士山の記事が多くまた歌をよみ入れている]

同上 <わ918-1>

写 (『今古残葉』第8冊の内)

同上 <238-1>

写 (『鶯宿雑記』232の内)

諸国採葉記 <特7-391>

大窪昌章 手稿本 中 不完

同上 <特7-387>

大窪昌章 明治7 戸田寿昌写 中

所歴日記 <197-213>

石出帯刀 (常軒) 写 中 [寛文4年江戸から東海道を伊勢, 山城, 大和に遊び有馬へ赴く]

同上 <139-49>

写 2冊 大

白河紀行 <わ915.4-4>

(飯尾) 宗祇 写 (『続群書類従』巻18の下の内) [筑波, 日光, 那須, 白河等の紀行]

真光院紀行 <237-352>

写 中 巻尾に大田南畝自筆の解題あり

じんじゅうふくまき 壬戌子役志 <わ081-4>

増島 固 写 (『明遠館叢書』第35, 36冊の内) [享和2壬戌年著者が二条城守備の任に当り, 江戸から東海道を經て京へ赴ける折の紀行]

壬戌紀行 <181-236>

大田南畝 写 2冊 中 [享和2年3月公用を終って大阪から木曾路を江戸へ帰る]

^{すうてい}趨庭紀行 〈鶯1686〉

児玉 雅 (晋庵) 文政7写 小
〔尾張から京へ親孝行せんと赴けるもの〕

^{せい}西征日記 〈832-221〉

杉本 良 (栲園) 自筆稿本 中
付 『岐蘇紀行』〔文化7年歎喜
法親王に従い東海道を京へ至る漢文
紀行〕

宋雅道すからの記 〈200-42〉

飛鳥井宋雅 (雅縁) 写 大 付
『水無瀬殿御奉納百首和歌』〔応
永34年越前へ下向する時の紀行〕

^{ふうぎよく}雙玉紀行 〈213-375〉

山口吉房編 伊勢 柏屋兵助等 須
受能耶藏版 文化12序 大 〔『紀見
のめくみ』『なくさのはまつと』よ
りなる〕

^{そうず}相豆紀行 〈237-270〉

菊池 禎 (衡岳) 東都 思玄亭藏
版 寛政3刊 大 付 『海岳雜詠』

^{そうちよう}宗長手記 〈127-1〉

宗長 刊 (『群書類従』巻336, 168
冊の内) 〔駿河, 伊勢, 奈良, 京
等の紀行〕

^り旅路廻日記 〈124-230〉

鈴木重嶺 文久3成 写 (『桜園叢
書』巻41の内) 〔江戸から中山道
を大阪へ〕

^{いのちげ}旅の命毛 〈126-178〉

三枝斐子 (土屋茅淵女) 文化4成
写 中 〔文化3年江戸から和泉国
へ至る〕

旅のひとつ 〈107-147〉

徳布編 天明6成 刊 中 〔江戸
から故郷三河の父母や旧友をたずね
たる折の往復俳諧紀行〕

^{ちゆうまき}中馬紀行 〈166-115〉

青木鳳毛 (重隆) 嘉永2成 写
〔『酔霞楼叢書』の内) 〔江戸から
甲斐, 駿河, 三河, 尾張を経て伊勢
桑名へ赴ける漢文紀行〕

^{ちゆうき}陟記録 〈166-115〉

小野損庵 写 (『酔霞楼叢書』の
内) 〔天保11年伊勢桑名から越後
柏崎へ赴ける漢文紀行〕

^{つるしば}鶴芝集 〈189-207〉

(鈴木) 道彦等編 享和元成 刊
7冊 (合2冊) 別名 道彦七部集
〔享和元年土朗が松兄卓池を伴い江
戸へ赴いた折の道の記を道彦が代作
したもの〕

道彦七部集

前書に同

^{てつかん}轍環録 〈166-115〉

広瀬政典 (蒙斎) 写 〔伊勢桑名
から尾張, 三河, 駿河, 甲斐を経て
江戸へ達せる漢文紀行〕

東越道の記 〈238-11〉

天保9成 写 中 〔京から江戸に
至り帰途越前へ赴きし紀行〕

- 東奥紀行 〈111-276〉
山口凹巷（韓聯玉）刊 2冊（合
1冊）中〔享和3年伊勢から江
戸へ出、東北地方を巡る漢文紀行〕
- 東海紀行 〈鶉2698〉
藤辰之（醒梅） 釈松堂叟批評
延宝3跋刊大〔尾張から江戸
への漢文紀行で和歌をよみこむ〕
- 東海道之記 〈107-49〉
写中〔江戸から東海道を京、伏
見へ、地誌に近し〕
- 東海道之記 〈わ918-2〉
小堀政一（宗甫）写〔『扶桑残葉
集』第8冊の内〕〔江戸から東海
道を京へ〕
- 同上 〈わ918-1〉
写〔『今古残葉』第10冊の内〕
- 東海游藝 ゆづのう 〈鶉2697〉
安達修（清河）著 武龍孟玉、左
鳳子陽輯 天明5序刊大〔江
戸から奥州〕
- 東関記 〈わ918-1〉
釈沢庵写〔『今古残葉』第10冊
の内〕〔東海道を上京の記、詩歌
を多くよみこむ〕
- 同上 〈わ918-2〉
写〔『扶桑残葉集』第2冊の内〕
- 東関紀行 〈わ915.4-1〉
源親行 近世写大〔仁治3年
京から鎌倉へ至る紀行、歌を多くよ
みこむ〕
- 同上 〈138-23〉〈子-4〉
写〔『扶桑拾葉集』巻11の内〕
- 同上 〈127-1〉
刊〔『群書類従』巻331, 171冊の
内〕
- 東行日記 〈141-98〉〈鶉4110〉
松井可楽 京 福森兵左衛門 備前
岡山 中野孫左衛門 元禄11刊大
〔寛文7年播州から江戸へ至る間の
漢詩文を収める〕
- 東行筆記 〈198-169〉
湯浅元禎（常山） 大阪 河内屋茂
八等 明和2自跋 明和4刊 横長
中〔郷里岡山から武州河崎へ至
る〕
- 東行別記 〈141-99〉
松井可楽 備前岡山 中野孫左衛門
宝永2刊大〔寛文7年播州から
江戸へ至る紀行で和歌をよみこむ〕
- 東国紀行 〈141-72〉
（谷）宗牧 写大〔天文13年京
から東海道諸国を遊歴し、江戸へ至
る〕
- 同上 〈127-1〉
刊〔『群書類従』巻340, 175冊の
内〕
- 同上 〈238-1〉
写〔『鶯宿雑記』236の内〕

東国陣道記 〈わ918-1〉

細川幽齋 写 (『今古残葉』第8冊の内) [天正18年小田原征伐従軍の記, 文中和歌多し]

同上 〈238-1〉

写 (『鶯宿雑記』234の内)

東山日記 〈141-69〉

松井可楽 大阪 河内屋宇兵衛 同
岩国屋徳兵衛 享保6刊 大 [江戸から東山道を播州への漢詩紀行]

東征集 〈104-182〉

中井積善(竹山) 細井平州批評
安永2成刊 大付 『西上記』
[安永元年4月堀田侯を護衛して京から東海道を江戸へ至る漢詩文紀行]

同上 〈鶯2731〉〈鶯2732〉

東都 青雲堂(鶯2731) 東京 名山閣(鶯2731) 安政2序 小

東省統録 〈125-31〉

安積 信(良斎) 耕雲齋蔵版 天保11序 中 『遊豆記勝』と合刻
[岩代, 下野, 常陸三国の勝を記す漢文紀行]

遠江の道の記 〈138-23〉〈子-4〉

釈 増基 写 (『扶桑拾葉集』巻3の内) [京から遠江へ遊べるもの]

東藩日記 〈140-97〉

茅原元常(虚斎) 京 菱屋孫兵衛等 文化3序刊 大 [京から東海道を江戸への漢文紀行]

同上 〈鶯2743〉

平安 林伊兵衛等 文化12刊 大

東武再往日記 〈229-2〉

藤井懶斎 宝永2識 写 中 [京から江戸へ]

東遊記 〈せ-35〉

平秩東作(立松東蒙) 写 大
[江戸から奥羽・蝦夷への紀行]

同上 〈145-149〉

平秩東作(立松東蒙) 天明4自序
写 2冊 中

東遊戯筆 〈鶯2686〉

山田 禎(栄祥) 無着書房 鏡湖楼蔵版 文化8刊 大 [『鏡湖楼隨筆』之一] [伊勢から江戸への漢文紀行]

東遊雜記 〈W258-1〉

古河辰(古松軒) 天明8成 写
2冊 大 [天明8年幕府の巡検使に随行し奥羽・蝦夷を巡回せる折の紀行]

同上 〈141-88〉

写 5冊(合2冊) 大

東塙大人なか行中なかの日記

〈915.5-Ka159n〉〈839-95〉

香川景樹 皇都 出雲寺文治郎等
嘉永3刊 大 [江戸から伊勢]

永野氏紀行 〈229-226〉

永野孫次郎 写 4冊 (中3冊)

- 横長中1冊) 内容 大阪一覽記、西行日記、西京独案内、利根三社神田靈記〔弘化から幕末、明治初期の紀行〕
- ながさのはまつと <213-375>
本居大平 刊 (『隻玉紀行』の内)
〔寛政6年宣長に従い紀伊、京を経て江戸へ至る〕
- 那久佐の浜都登 <140-60>
本居大平 写 大 前書と同内容
- ながさめ草 <238-1>
釈 正徹 写 (『鶯宿雜記』231の内) 〔応永25年京から近江を経て美濃に入り、京へ戻る〕
- 同 上 <127-1>
刊 (『群書類従』巻334, 172冊の内)
- 同 上 <138-23> <子-4>
写 (『扶桑拾葉集』巻22の内)
- 入京記 <229-20>
米良 倉 (東嶮) 写 (『使崎墨録』の内) 〔江戸から東海道を京へ〕
- はじめてあつまにいきける道の記 <138-23> <子-4>
豊臣勝俊 (木下長嘯子) 写 (『扶桑拾葉集』巻29中の内)
- 春の曙 <別図181-31>
烏丸光広 須原屋茂兵衛 寛永12次元禄6刊 2冊 (合1冊) 中 〔京から東海道を江戸へ下る〕
- 同 上 <138-23> <子-4>
(『扶桑拾葉集』巻28の内)
- 武甲駿遠巡回日誌 <125-235>
平尾猪之吉 写 中
- ^{ふじなみ}藤波記 <239-17>
飯塚正重 写 大 〔明暦元年江戸から中山道を大阪へ赴く紀行〕
- ^{ふじのま}不二廻家記行 <104-151>
藤廻家寛清 写 大
- ^{さわたる}藤原実富紀行 <わ915.5-2>
押小路実富 写 中 〔文政4年江戸から伊勢、奈良、大阪、京等への紀行〕
- ふたくさ日記 <111-230>
小林元雄編 江戸 万笈堂 英平吉文化6刊 中 〔加藤千蔭の『香取日記』村田春海の『椿詣の記』の二種からなる〕
- 平安紀行 <132-176>
太田持資 (道灌) 写 (『続扶桑拾葉集』第3冊の内) 〔文明12年東海道を京へ赴ける紀行、歌を多くよみ入れる〕
- 同 上 <127-1>
刊 (『群書類従』巻336, 173冊の内)
- 同 上 <206-52>
写 (『朝風意林』3の内)
- 同 上 <238-1>

写 (『鶯宿雜記』232の内)

丙辰紀行 (わ915.5-3)

林 道春(羅山) 二条通観音町
風月宗智 元和2成 寛永15刊 大
〔元和2年江戸から東海道を經て畿
内各地を巡遊、比叡、大津へ至る〕

北道遊簿

〈919.5-N233h〉〈111-55〉〈鶯3422〉
長戸諫(得齋) 江戸 須原屋源助
天保10序 刊 2冊 大 〔文政12
年美濃から飛騨、越中、越後、奥州
を遊歴せる漢文紀行〕

北陸道記行 (831-53)

鶴眠堂 稿本 2冊 大 付 『越
中立山登山道之記』 〔出羽から北
陸道を京へ至る道の記。挿絵あり〕

正辰道の記 (211-599)

正辰 天保6成 写 中 〔江戸か
ら中山道を近江へ至る〕

窓の明保野 (132-210)

积 似雲 写 大 〔享保15年から
同16年にかけて京から伊豆三島、陸
奥松島、信濃国諸名所を巡覽せる折
の紀行。和歌を多くよみ入れている〕

窓の曙 (112-143)

写 2冊(合1冊) 大 前書と同
内容

同上 (わ918-1)

写 (『今古残葉』第25冊の内)

道の記 (んニ-67)

絲井宇源次等記 政芳画 宝曆12成
卷子本 2軸 〔宝曆12年信州小諸
から伊勢、大和、京、大阪等往復の
記にして、ほとんどが絵である〕

みち奥日記 (188-394)

巴凌、二日坊 京 たちばなや治兵
衛 宝曆13成 刊 中 〔伊勢安濃
津の二日坊が巴凌を伴ない東海、東
山の各地を歴遊したるもの、文中俳
句多し〕

道の幸 (238-1)

屋代弘賢 寛政4成 写 (『鶯宿雜
記』87冊の内) 〔寛政4年柴野栗
山等と共に諸家の古筆を模写すべき
命を受け江戸から東海道を京へ赴る
折の往復の記〕

道行ぶり (わ918-1)

賀茂真淵 写 (『今古残葉』第34冊
の内) 〔江戸・浜松往復の記〕

同上 (わ918-2)

写 (『扶桑残葉集』第17冊の内)

同上 (237-215)

写 (『真淵紀行』の内)

三ツの山巡 (211-251)

文政6成 写 中 〔文政6年白山、
立山、富士山の登山紀行〕

都のつと (191-610)

积 宗久 近世写 中 〔観応年間
名所を探りて東国及び奥羽へ下り夫
より京へ上る。歌を多くよみ入れて
いる〕

同上 (138-23) 〈子-4〉
写 (『扶桑拾葉集』巻15の内)

同上 (午-11)
大田南畝自写本 大 『扶桑拾葉集』
からの写

同上 (127-1)
刊 (『群書類従』巻332, 171冊の
内)

もちづき
望月日記 (237-156)
堀内 徹 写 大 [文化4年君侯
に従い江戸から京へ赴ける紀行]

ゆきのしらかわ
雪白河集 (103-216)
(曇花房) 魯九編 京 橋屋治兵衛
享保12序 刊 2冊 (合1冊) 中
[享保11年春より1年余り北陸路か
ら奥の細道の旅を逆に辿った道の記
で、帰りに伊勢参宮をしてお礼詣
も行なっている]

夢路の日記 (124-230)
鈴木重嶺 写 (『桜園叢書』巻41
の内) [天保13~14年江戸から東
海道を大阪への紀行]

〈西国〉

あまのこのすまび
白水郎ノ子紀行 (111-2)
岡西惟中 天和3序 写 3冊 (合
1冊) 大 [天和元年妻順女をな
くした惟中が我とわが身を慰めるた
め翌年夏から冬にかけて四国、中国
へ旅行した折の記]

うすきり (915.5-N568u)

中島広足 文久元 手稿本 大
〔熊本から航路難波へ至る〕

がんとゆう
巖邑紀行 (鶉147)
宇都宮由的 (遜庵) 撰州大阪書林
宇兵衛 宝永元刊 大 [京から故
郷岩国へ帰る時の漢文紀行]

紀行津々はたち (190-7)
猶 貫 写 中 [宝暦5年中国、
四国、九州への紀行]

九州の道の記 (138-23) 〈子-4〉
豊臣勝俊 (木下長嘯子) 写 (『扶
桑拾葉集』巻29上の内) [天正20
年豊太閤が肥前名護屋へ進発せる折
に随從せる記]

同上 (238-1)
写 (『鶯宿雑記』234の内)

九州みちの記 (839-93)
細川幽齋 大阪 河内屋長兵衛 文
政6刊 大 [天正15年丹後から伯
耆へ至り、乗船して山陰西海の沿海
を経て薩摩、豊後へ至り大阪へ帰る
までの記、和歌連歌多し]

九州道の記 (915.5-H717k)
慶応元年藤原成綱写 大 前書と同
内容

同上 (127-1)
刊 (『群書類従』巻338, 174冊の
内)

同上 (138-23) 〈子-4〉
写 (『扶桑拾葉集』巻26の内)

細川幽齋道之記 〈125-81〉

写 大 前書と同内容

兼如筑紫道記 〈830-180〉

兼如 慶長3成 江戸末期写か 大
〔慶長3年石田三成と共に京から大阪を経て筑紫へ下りし紀行〕

西国順礼道芝記 〈101-177〉

文政10成 写 6冊 大 〔江戸から関西への順礼紀行〕

西遊紀行 〈212-144〉

一齋主人(梅牙) 文化3写 大
〔関西紀行〕

西遊雜記 〈141-89〉

古河 辰(古松軒) 写 6冊(合2冊) 大 〔天明3年の中国及び九州への紀行〕

西遊日記 〈111-104〉

新宮涼庭 馭豎齋藏版 天保元成刊 中 〔丹後与謝から肥前長崎へ至る漢文紀行〕

小西遊草 〈鶯472甲〉 〈鶯472乙〉

細合 離(斗南) 大阪 藤屋弥兵衛 寛政7刊 大 〔摂津から讃岐へ至る漢文紀行〕

撰西奇遊談 〈147-147〉

秋里籬島 大阪 藤屋九兵衛等 文化7序 嘉永7刊 3冊(合1冊) 中 〔関西諸国歴遊中の奇話を集めたもの〕

但馬湯島道之記 〈209-136〉

河合備陽 享保18刊 小 〔享保13年大津から京、丹波、丹後を経て湯島へ至り、播磨を過ぎて備前へ帰る道中案内記〕

筑紫道記 〈127-1〉

(三善)宗祇 刊 〔『群書類従』巻336, 173冊の内) 〔文明12年大内政弘の招きにより周防山口へ下り、それより筑前地方を遊覧したる紀行で和歌連歌をよみ入れたもの〕

同上 〈238-1〉

写 〔『鶯宿雜記』232の内)〕

中国九州紀行 〈235-296〉

佐藤信淵 写 中

東遊稿 〈鶯2685〉

広瀬 謙(旭莊) 写 3冊 中
〔九州から中国地方への漢詩文紀行〕

校首異書 土佐日記 〈915.32-Ki235t〉

紀 貫之 名古屋 松屋善兵衛等 文政3刊 大

同上 〈127-1〉

刊 〔『群書類従』巻327, 169冊の内)〕

同上 〈138-23〉 〈子-4〉

写 〔『扶桑拾葉集』巻2の内)〕

同上 〈わ218-2〉

〔『土佐国群書類従』巻99, 119冊の

- 内)
- 鳴門日記 〈126-251〉
三宅興道 天明6序 写 中 付
『小春日記』〔尾張から美濃路を
兵庫に出て、阿波へ渡る〕
- 南海流浪記 〈209-712〉
道範 嘉永4刊 大 〔道範阿闍梨
が仁治4年讃岐国へ配流せられた時
の記にして建長元年赦されて高野山
へ帰るまでの記〕
- 同 上 〈わ915.4-2〉
刊 〔『群書類従』巻330の内〕
- 同 上 〈127-1〉
刊 〔『群書類従』巻330, 170冊の内〕
- 同 上 〈238-1〉
写 〔『鶯宿雑記』231の内〕
- 薄游漫載 〈67-237〉〈鶯3047〉
三宅 邦 (橘園) 京都 平野屋太
兵衛等 文化11刊 2冊 小 〔京
から対馬へ至る漢文紀行〕
- 花のしたぶし 〈915.5-N568h〉
中島広足 安政4成 手稿本 5冊
大 〔長崎から船路大阪へ出、京、
奈良、吉野等を遊覧した折の記〕
- はるのかり 前西帰 〈W119-11〉
中島広足 写 大 〔大阪から船路
四国を経て豊後国鶴崎へ着、陸路熊
本へ帰る〕
- 汎海紀行 〈183-159〉
- 平沢元愷 (旭山) 刊 〔『漫游文集』
第1冊の内〕 〔播磨から豊前へ至
る舟路漢文紀行〕
- 松浦の紀行 〈わ918-2〉
春山 写 〔『扶桑残葉集』第8冊の
内〕 〔大阪、住吉から船路長門辺
の紀行〕
- 同 上 〈わ918-1〉
写 〔『今古残葉』第36冊の内〕
- 漫遊稿 内篇外篇 〈鶯3482〉
富田大鳳 (日嶽) 享和元成 写
中 〔九州熊本から近畿辺への漢文
紀行〕
- 漫游日記 〈119-86〉
花房 駿 刊 大 〔文久元年佐賀
を出てから京阪へ遊び長崎を経て帰
る〕
- 道ゆきぶり 〈138-23〉〈子-4〉
源貞世 (今川了俊) 写 〔『扶桑拾
葉集』巻15の内〕 〔建徳3年京か
ら山陽道を周防赤間関へ至る。文中
和歌多し〕
- 同 上 〈127-1〉
刊 〔『群書類従』巻333, 172冊の
内〕
- 同 上 〈238-1〉
写 〔『鶯宿雑記』229の内〕
- 藻屑 〈わ918-1〉
藪氏母 写 〔『今古残葉』第40冊の
内〕 〔豊後から京へ舟路往復の記〕

よし正紀行 〈183-384〉

写 (『不忍叢書』第10冊の内)
〔江戸から伊勢, 京, 大阪, 讃岐等へ至る〕

〈蝦夷〉

石狩日誌 〈特1-324〉

松浦武四郎 多気志楼蔵版 万延元
識 大 『東西蝦夷山川地理取調紀
行』の1つ

蝦夷日記 〈239-43〉

谷 元旦 (文啓) 写 3冊 (合1
冊) 大 〔寛政11年松平信濃守信
明に随行せし折の日記〕

蝦夷紀行 〈139-107〉

谷 元旦 (文啓) 写 2冊 (合1
冊) 大 前書と同内容

同上 〈145-152〉

写 2冊 (合1冊)

蝦夷日誌 〈124-24〉

松浦武四郎 多気志楼蔵版 万延,
文久年間 22冊 (合11冊) 中 別
名『東西蝦夷山川地理取調紀行』内
訳『石狩日誌』, 『天塩日誌』, 『夕張
日誌』, 『後方羊蹄日誌』, 『十勝日
誌』, 『久摺日誌』, 『納紗布日誌』,
『知床日誌』, 『東蝦夷日誌』, 『西蝦
夷日誌』。

蝦夷の島踏しまぶみ 〈(保)-12〉

福井芳麿 享和元成 文化11訂正
写 3冊 大 〔享和元年官命を受け
松平忠明等と共に東北地方を経て
蝦夷内地巡検の記〕

おくのみちくさ 〈145-154〉

福井芳麿 写 中 前書と同内容

えぞのでぶり 〈さ-23〉

菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第35
の内)

えみしのさへき 〈さ-23〉

菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第34
の内)

紀成蝦夷紀行きせい 〈145-115〉

児山紀成 写 3冊 (合1冊) 中
〔文化5年江戸から蝦夷のエトロフ
へ赴ける紀行〕

北蝦夷余誌 〈特1-332〉

松浦武四郎 多気志楼蔵版 安政7
跋 大 〔安政3年の樺太紀行〕

久摺日誌くすり 〈特1-73〉

松浦武四郎 多気志楼蔵版 万延元
序 大 『東西蝦夷山川地理取調紀
行』の一つ 〔クスリ (釧路) から
阿寒岳, ヒホロ (美幌), アバシリ,
摩周岳等へ〕

後方羊蹄日誌しりべし 〈特1-246〉

松浦武四郎 多気志楼蔵版 安政6
識 大 『東西蝦夷山川地理取調紀
行』の1つ 〔虻田から, トウヤを
経てシリベシに登り, ルウチシ, セ
ニハコへ至る〕

探蝦録なんか 〈鵜2456〉

横井豊山 安政3写 中 〔幕命に
より諸有司と共に南北蝦夷地を巡視

せる折の日記。漢文で記され詩を挿む]

同上 〈141-148〉

写 2冊(合1冊) 中

てしお
天塩日誌 〈特1-334〉

松浦武四郎 多気志楼蔵版 文久2
跋 大 『東西蝦夷山川地理取調紀
行』の一つ〔天塩川を廻行したる
紀行〕

とうきよう
東徼私筆 〈127-188〉

成石 修 安政4成 写 3冊 中
〔江戸から北海道、樺太、クナシリ
等へ視察に赴ける折の往復紀行〕

とから
十勝日誌 〈特1-72〉

松浦武四郎 多気志楼蔵版 万延元
序 中 『東西蝦夷山川地理取調紀
行』の1つ〔石狩からピエベツ(美
瑛別)を経て、フウラヌイ(富良野)
から十勝、ヨベレベレフ(帯広)か
ら河口のヲホツナイ(大津)へ至る〕

西蝦夷高島日記 〈145-155〉

写 4冊(合2冊) 中〔西蝦夷
高島へ官命を以って往復せる折の日
記〕

西蝦夷日誌 〈特1-261〉

松浦武四郎 多気志楼蔵版 5冊
(初篇から6篇の内、5篇を欠く)
大 『東西蝦夷山川地理取調紀行』
の1つ

同上 〈特1-262〉

第3編のみ 多気志楼蔵版 大前
書の第3編と同本

にそうだんまき
二隻譚奇 〈144-166〉

久保田見遠、新楽間叟 文化7序
写 5冊(合2冊) 中〔『北地日
記』と『北槎小録』からなり蝦夷千
島を視察せる時の見聞記〕

のまつぶ
納紗布日誌 〈特1-64〉

松浦武四郎 多気志楼蔵版 万延元
序 大 『東西蝦夷山川地理取調紀
行』の一つ〔厚岸から舟でキイタ
ップへ、陸路ハナサキ、納紗布、ネ
モロ(根室)へ至る〕

東蝦夷日誌 〈特1-843〉

松浦武四郎 多気志楼蔵版 5冊
(初篇から7篇の内、4・6篇を欠
く) 大 『東西蝦夷山川地理取調
紀行』の一つ

ひろめかり 〈き-23〉

菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第27
の内)

松前紀行 〈111-90〉

堀田正教 文化5成 文政6写 大
〔文化4年若年寄堀田正教が台命に
より松前へ赴きし折の往復紀行〕

陸奥紀行 〈239-19〉

堀田正教 写 大 前書と同内容

糸ぞ道記 〈231-231〉

堀田正教 文政元写 3冊 大 前
書と同内容

松前游記 〈鶺3479〉

均斎 弘化3写 中

未曾有記 (145-153)
遠山景晋 寛政11成 写 2冊(合1冊) 中 [寛政11年幕府の命により蝦夷視察のため江戸を3月に出発、9月に帰着するまでの日記]

夕張日誌 (特1-318)
松浦武四郎 多気志楼蔵版 万延年序 大 『東西蝦夷山川地理取調紀行』の一つ [夕張川を遡行した後下って、千歳へぬけ白老へ至る]

<東北地方>

東北地方諸国にわたるもの

奥羽名所の紀行 (190-368)
石井脩融 文政12自序 写 中

奥州筋巡見自分日記 (156-85)
天明8成 写 4冊(合2冊) 横長小 [天明8年江戸から奥州諸国巡検の日記]

奥濃道富美 (195-139)
西園主人 写 大 巻5～巻9のみ

統奥之保曾道蝶遊 (141-103)
十無居士(山崎北華) 京都 西村市郎右衛門 武江 西村源六蔵版 刊 3冊(合1冊) 中 [元文3年江戸から松島へ奥の細道の跡をしたい遊ぶ記]

東奥紀行 (111-74)
長久保赤水 門人長中行訂正、標注

大阪 森本太助等 水戸 長久保氏蔵版 寛政4刊 大 付 『北越七奇』 [宝暦10年7月常陸から奥州石巻へ至るまでの漢文紀行。挿絵あり]

赤水先生東奥紀行 (919.5-N146s)
長久保赤水 門人 長中 行訂正、標注 寛政3序 刊 大 前書と同内容

東奥記行 (198-205)
写 横長 中 [道中案内記]

同上 (165-106)
写 横長 小 前書と同内容

東北遊日記 (166-192)
吉田松陰 大阪 河内屋吉兵衛 慶応4刊 2冊(合1冊) 中 [嘉永4年12月同志と共に奥羽地方を巡遊し佐渡にも渡った時の漢文紀行]

東遊紀行 (831-73)
原 義胤(徳斎) 自筆本 中 [文政8年東奥遊覧の記]

みちのく紀行 (196-125)
釣月 享保2成 写 大 [江戸から奥羽へ]

陸奥日記 (214-61)
央斎 文政元序 写 中 [江戸から奥羽]

浴陸奥温泉記 (826-55)
小宮山昌秀(楓軒) 文政10成 自筆本 3冊 大 [『小宮山叢書』の

内)〔文政10年水戸から陸前国鳴子
温水へ赴く記〕

むつちがかり
陸奥衛

〈107-106〉

(太白堂) 桃隣編 京寺町 井筒屋
庄兵衛、江戸石町 西村字兵衛 元
禄10跋 刊 5冊(合2冊) 中
〔桃隣が「奥の細道」の跡をたどっ
て江戸から奥州各地を旅したもの〕

ゆうおうれき
游奥曆

上・下

〈183-159〉

平沢元愷(旭山) 刊 2冊(上は
『漫遊文集』第1冊の内、下は同第
2冊の内)〔上は江戸から陸奥、
下は松前から出羽を経て江戸への漢
文紀行〕

陸奥国

そとが浜づたい

〈さ-23〉

菅江真澄 写(『真澄遊覧記』第31
の内)

つがるのおち

〈さ-23〉

菅江真澄 写(『真澄遊覧記』第31
の内)

にしきのはま

〈さ-23〉

菅江真澄 写(『真澄遊覧記』第33
の内)

陸奥の紀行

〈106-247〉

写 中〔文化4年江戸から奥州へ〕

雪のもろ滝

〈さ-23〉

菅江真澄 写(『真澄遊覧記』第33
の内)

出羽国

あさひかわ
阿山比川道之記

〈249-222〉

佐竹義和 文化6写 中〔佐竹侯
の阿仁銀山紀行〕

阿仁の沢水

〈さ-23〉

菅江真澄 写(『真澄遊覧記』第42
の内)

羽州山形道の記

〈103-139〉

加藤長房か 天保10写 中〔江戸
から出羽山形へ〕

うらら たき
宇良の笛多幾

〈さ-23〉

菅江真澄 写(『真澄遊覧記』第38
の内)

おが
男鹿の秋風

〈さ-23〉

菅江真澄 写(『真澄遊覧記』第38
の内)

男鹿の寒風

〈さ-23〉

菅江真澄 写(『真澄遊覧記』第41
の内)

男鹿の春風

〈さ-23〉

菅江真澄 写(『真澄遊覧記』第40
の内)

おがらの滝

〈さ-23〉

菅江真澄 写(『真澄遊覧記』第39
の内)

かすむ月星

〈さ-23〉

菅江真澄 写(『真澄遊覧記』第39
の内)

しげき山本 <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第37
の内)

すすきの出湯 <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第37
の内)

せいがい
清街筆記 <104-231>
哲阿弥 (晩得) 写 (『叢書料本』
23の内) [出羽能代の紀行]

いままのつきみ
大平山居待月見の記行 <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第41
の内)

月の出羽路 <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第1
~14の内)

出羽の道わけ <183-390>
霞江庵翠風 慶応3成 写 7冊
小

にえのしがらみ <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第42
の内)

ひえのむらぎみ <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第40
の内)

まきの冬がれ <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第28
の内)

みかべのよろひ <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第42
の内)

雪の秋田根 <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第37
の内)

雪の出羽路 <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第15
~25の内)

雪のふる道 <と-13>
津村正恭 (涼庵) 寛政2成 写
4冊 (合2冊) 中 [天明8年の
冬江戸から雪の道を秋田城下まで旅
行し、翌寛政元年滞在同2年帰府]

雪の道奥雪の出羽路 <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第36
の内)

陸中国

いわてのやま <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第30
の内)

於久のうらうら <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第28
の内)

おくのてぶり <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第30
の内)

おろちの巻 <さ-23>
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第29
の内)

平泉諸遊記 〈183-159〉
平沢元愷(旭山) 写 (『漫遊文集』
第2冊の内)

まきの朝つゆ 〈さ-23〉
菅江真澄 写 (『真澄遊覧記』第29
の内)

陸前国

あきゆう
秋保日記 〈191-713〉
富田以実 寛延4自跋 写 中
〔秋保村の温泉へ赴きし紀行〕

鎌崎入湯の記 〈127-148〉
伊達吉村 写 中 付 『日光山紀
行』等諸篇

金華山記行 〈197-229〉
藤原広泰 嘉永4成 写 中 [こ
の紀行は仙台を出て牡鹿郡渡波の宿
を発するより始まり、大金寺弁財天
に詣するに終る]

登金華山記 〈183-159〉
平沢元愷(旭山) (『漫遊文集』第
2冊の内)

やくもがそう
八雲雅藻 〈191-600〉
伊達吉村 享保5写 中 [領内巡
遊の紀行文5種を集めたもの]

塩釜・松島

えんしやう
塩松紀行 〈191-678〉〈鶉242〉
古梁南山(紹峴) 仙台 伊勢屋半
右衛門 江戸 須原屋茂兵衛 文化
6刊 中 [文化2年8月辺黄美等

4人と塩釜・松島を遊覧した折の漢
文紀行。詩文挿絵あり]

をしまのとまや 〈141-94〉
細井徳民(平州) 天明8成 嚶鳴
館蔵版 天保2刊 2冊(合1冊)
大 [米沢から松島・塩釜への和歌
を多くよみ入れた紀行]

游千賀記 〈183-159〉
平沢元愷(旭山) (『漫遊文集』第
2冊の内) [塩釜社参詣漢文紀行]

松島紀行 〈107-196〉
(方鏡閣) 千梅 元文4刊 中
〔元文3年江戸から日光、那須、松
島等へ歴遊したる俳諧紀行〕

松島紀行 〈別図109-126〉〈YD-216〉
朴斎道也 安永7自序 自筆本 中
〔江戸から松島〕

松島紀行 〈205-273〉
平井行蔵 寛政8序 刊 大 [仙
台から松島へ遊ぶ漢文紀行]

松島行記 〈216-91〉
楠本 覚 写 中 [嘉永5年江戸
から松島へ遊ぶ漢文紀行]

遊松島塩釜記并詩 〈213-60〉
吉見幸和(恭軒) 延享3成、自筆
本 大 [漢文紀行]

游松島記 〈183-159〉
平沢元愷(旭山) (『漫遊文集』第
2冊の内) [漢文紀行]

遊松島記 (120-90)
細井徳民(平州) 明和8成 天保
8写 小 [上杉鷹山侯に聘せられ
てその顧問となった細井平州が、明
和8年米沢から松島へ遊んだ折の漢
文紀行]

松島日記 (わ918-1)
写 (『今古残葉』第2冊の内)

同上 (わ918-2)
写 (『扶桑残葉集』第1冊の内)

松島道之記 (209-663)
蝶夢 刊 中 [宝暦13年蕉露を伴
ない、木曾路から松島に遊び江戸か
ら東海道を上り帰庵した紀行、おも
に松島の美景描写が中心]

遊東陬録 (103-271)
松崎 復(慊堂) 刊 (『慊堂文鈔』
の内) 2冊(合1冊) 中 [文
政元年、江戸から松島、塩釜近辺に
遊ぶ漢文紀行]

岩代国

四季のみかり (112-166)
沢田名垂, 野矢常方著 西郷近思編
写 大 [会津中将容敬の桜狩, 川
狩, 紅葉狩, 鷹狩の4篇を収む]

〈関東地方〉

関東地方諸国にわたるもの

あめのいわぶる
天石笛之記 (848-157)

宮内嘉長 石上鑿通 文化13成 写
中 [平田篤胤が文化13年下総国浜
村の八幡宮に詣て天石笛を得た次第
を門人2人が記述したもの]

同上 (ち-7)
写 (『輪池叢書』11の内)

いぬしんさん が
犬新山家 (229-62)

湖十 享保18刊 中 [江戸から箱
根, 伊豆, 鎌倉をめぐり帰る俳諧紀
行]

かんこつ
換骨志略 (わ081-4)

松崎復(慊堂) 写 (『明遠館叢
書』第39冊の内) [寛政6年7月
から同年8月までの江戸から上州草
津往復の紀行]

きし
癸巳紀行 (WA17-8) (YD1-29)

林 鷲峯 承応2成 稿本 中
[江戸から日光街道を日光へ, 帰路
足利学校へ立寄り中山道を江戸へ]

くまわけごも
草分衣 (239-108)

石川清純 写 中 [嘉永5年江戸
から那須, 日光への紀行]

げつえん
月園翁旅日記 (213-324)

源(岡田)真澄 写 2冊(合1冊)
大 上巻 『上総日記』, 『上総に再
遊子日記』, 『雨降山日記』, 『杉田日

- 記』 下巻 『筑波日記』、『杉田日記』、『上総に三たび遊る日記』、『上総に四たび遊る日記』、『上総に五たび遊る日記』
- 講暇遊録 〈106-87〉
大槻清禎 (西磐) 蕉陰書屋 嘉永6刊 2冊 (合1冊) 大 卷1 『晃山紀勝』 卷2 『秩父行記』 卷3 『遊豆雜誌』
- 山東遊覽志 〈209-135〉
下谷隠士葛邦 江戸 花屋久次郎 安永8序 同9刊 2冊 小 〔上巻は江戸から小田原, 下巻は鎌倉から能見堂八景までの道中案内記〕
- しゆうむへん 酬夢編 〈120-150〉
広瀬 典 (蒙斎) 谷 文晁絵 文化3成 刊 小 〔下野, 常陸, 下総, 安房を歴遊して岩代へ帰る〕
- 同 上 〈わ081-4〉
写 (『明遠館叢書』第33冊の内) 前書と同内容
- 上州妙義山並武州三峯山採葉記 〈特1-2384〉
小野蘭山 写 中
- 常毛採葉録 〈特1-557〉
宮地維則 写 大 〔採品目録〕
- 常野採葉記 〈特1-1977〉
小野蘭山 文政6写 中 〔『蘭山先生採葉記』乾巻〕
- 同 上 〈特7-379〉
文久2写 中
- 同 上 〈特7-378〉
天保14写 中
- せきりょう 石梁遊草 〈108-225〉 〈鶯2126〉
樟島公礼 (石梁) 尚友舎蔵版 文化13刊 2冊 (合1冊) 大 〔上巻は各地の遊記に関する詩, 下巻は下野常陸の漢文紀行〕
- そうじよう 総常日記 〈111-162〉
清水浜臣 文化12成 写 中 〔文化12年家族を伴って常陸, 下総地方を遊覧した折の紀行〕
- つくばお 筑波嶺日記 〈166-120〉
清水浜臣 写 中 前書と同内容
- 東遊漫稿 〈鶯2692〉
熊谷尚之 (箕山) 江都 和泉屋吉兵衛 平安 西村市郎衛門 安永3刊 中 〔下総, 常陸地方を遊覧せる漢文紀行〕
- 利根三社神靈記 〈229-226〉
永野孫次郎 写 (『永野氏紀行』1の内)
- 南遊紀行 〈101-80〉
高橋克庵 日新書屋版 嘉永6刊 大 〔嘉永5年房総, 甲州, 相州, 武州に遊ぶ折の漢文紀行〕
- 同 上 〈107-109〉

奉送日記 〈188-33〉

小山田(高田)与清 写 (『松屋叢書』15の内) [天保15年武相各地の紀行]

三野日記 〈103-32〉

建部綾足 写 中 [江戸から上州・信州辺への紀行]

野州紀行 〈915.5-H587y〉

一柳千古 中島春臣(広足) 写 文化14・大

紀山菅のをかさ 〈189-216〉

有功庵 写 中 [文化11年の上野下野紀行]

山吹日記 〈112-154〉

清水浜臣 天保12写 大 [江戸から川越を経、上野下野漫遊の記]

遊房総記 〈119-89〉

小野正端(損庵) 写 大 [安政4年江戸から房総に遊ぶ紀行]

遊毛記 〈特1-1986〉

小野蘭山 写 中 付『日光山道之記』

同上 〈特1-2248〉

写 中

蘭山先生採葉志 〈特1-2171〉

写 中

常陸国

安寺持方の記 〈辰-44〉

岡野 従(逢原) 文化2 自跋 写 (『新三十幅』巻の2, 34冊の内) [久慈郡の山奥で磐城と境を接する世間とは没交渉という部落の巡回の記]

一日記 〈別4-16〉

鬼沢大海 写 (『鹿島立』『一日記』の内)

航湖紀勝 〈鶯396甲〉〈鶯396乙〉

藤森大雅(弘庵) 天保8 跋 刊 中 [著者が土屋侯に仕えて土浦に寓居する時霞浦を航して銚子に遊び又鹿島に参詣した折の漢文紀行]

従行日記 〈830-202〉

吉田子徳 安政元成 写 大 [安政元年城主に従行して江戸から笠間へ至る日記]

水城行役日記 〈830-175〉

川口長孺(緑野) 写 中 [文化7年水戸へ至る途中及び滞在中の景及び城中の行役(国史改訂御用)について記す]

筑波紀行 〈211-550〉

(雪中庵) 蓼太 刊 (『はいかい新夏引集』の内)

遊筑波山記 〈826-56〉

小宮山昌秀(楓軒) 自筆稿本 大 (『小宮山叢書』の内) [水戸から筑波]

常陸紀行 (111-66) 〈W249-6〉
黒崎貞孝(洗心) 大阪 秋田屋太
右衛門等 文政9 自序 刊 4冊
(合2冊) 大

漫遊記談 (147-139)
黒崎貞孝(洗心) 文政9 序 刊
中 前書と同内容

鹿島

鹿島紀行 (235-21)
松尾芭蕉 下谷 花屋久治郎 宝曆
2 後序 刊 中

同上 (107-54)
写 中 (『続はし三句のわたり』と
合本)

鹿島参詣記 (W249-7)
竹村立義 写 大 絵入 (文政7
年の紀行)

鹿島日記 (839-98)
小山田(高田)与清 文政5 序 耕
文堂 刊 大 [文政3年江戸から
千住, 我孫子, 龍ヶ崎, 佐原を通
って香取, 鹿島に詣で, 引返して銚子,
成田, 船橋を経て帰るまでの紀行]

下総国

小金紀行 (107-91)
友田次寛 天保12成 写 中 (『船
橋詣記』と合1冊) [天保12年江
戸から下総小金の諏訪神社参詣の
記]

関宿紀行 (239-11)
写 大 [文政13年江戸から下総の
関宿へ至る紀行]

相馬日記 (200-103)
小山田(高田)与清著 北条時郷注
江戸 釜屋又兵衛等 文政元刊 3
冊(合1冊) 大 [文化14年下総国
の各所を巡遊した時の紀行]

成田道乃記 (237-87)
鈴木房輝 写 中 [文政12年江戸
から成田へ]

船橋記行 (215-228)
田口千頴 天保8成 写 中

船橋詣記・小金紀行 (107-91)
友田次寛 天保12成 写 中

香取

香取日記 (111-230)
加藤千蔭 寛政6成 刊 (『ふたく
さ日記』の内) [加藤千蔭が村田
春海を伴って香取, 鹿島, 銚子へ遊
んだ紀行で歌人一流の歌日記であ
る]

同上 (145-145)
刊 (『県門遺業』第5冊の内)

安房国

房迥邦記行 (107-289)
撫草庵(大西)寛雲 写 中

下野国

喜多温泉道の記 <127-158>

有隣 文化4成 写 中 [文化4年白河の関手前から野州黒羽領喜多温泉への紀行]

あずまのにいみや
稚新宮

<や-31>

斎藤彦磨 自筆稿本 嘉永2成 中
〔江戸から下野へ至る〕

日光

日光こしやうこう 扈從晃山日記 <鶯1093> <鶯1094>

木村 蔚(裕堂) 写 中 [天保14年江戸から日光への漢文日記]

遊中禅寺記 <144-75> <鶯2498>

板倉勝明 甘雨亭蔵版 嘉永4刊
大 付 『補陀落湖記』 [嘉永3年の上州安中の城主甘雨亭主人板倉伊予守の漢文遊記である。巻初巻末に阿部伊勢守正弘を初め諸大名の序跋あり]

日光けんもん 駅程見聞雑記 <111-228>

多紀安長(元簡) 聿修堂蔵版 天保14刊 中 [著者が享和2, 3両年上野輪王寺宮に扈從して日光に参詣した折の記]

日光紀行 <よ-33>

青山延光 写 中 付『日光從駕紀事』 [天保14年將軍日光参詣の折に從行したる記]

日光紀行 <103-28>

風弦堂 写 中 表紙は風弦堂日光葛飾

紀行 [享保11年江戸から日光への紀行]

日光紀行 <229-20>

米良 倉(東嶮) 写 [『使崎稟録』の内] [弘化4年江戸から日光への漢文紀行]

日光山紀行 <124-9>

烏丸光広 写 大 [『あずまの道の記』と合1冊] [元和13年東照公の遺骸を久能山から日光へ遷した折に附随した記]

同 上 <138-23> <子-4>

写 [『扶桑拾葉集』巻28の内]

日光山紀行 <127-148>

伊達吉村 写 [『鎌崎入湯の記』の内] [正徳3年幕命により日光社修繕を管理するため、江戸から赴ける折の往復の記]

日光参詣旅行記 <125-207>

志賀 忍(理斎) 文化5成 写 中 [文化5年江戸から日光往復の記]

日光山行記 <127-295>

佐藤 坦(一斎) 写 [『愛日楼全集』44, 7綴の内] [文政元年の紀行]

日光山道之記 <特1-2974>

岩崎常正(灌園) 手稿本 文化6成 小 表題は「日光山紀行」

同 上 <特1-1986>

前書と同内容 写 (『遊毛記』の内)

平沢元愷 (旭山) (『漫游文集』第2冊の内)

日光巡拝図誌 <113-131>

竹村立義 文政9序 写 4冊 大
〔文化10年江戸から日光、さらに鹿沼、出流山、太平山、岩船山等の靈場を巡詣。図・絵秀逸〕

三波石紀行 <鶯126/16>

一万田 希 (如水) 嘉永2写 小

同上 <鶯126/10>

写 小 前書と同内容

日光日記 <W119-22>

写 大 (江戸から日光)

游四万温泉記 <183-159>

平沢元愷 (旭山) 刊 (『漫游文集』第2冊の内)

日光名勝記 <209-132>

貝原益軒 京 茨城多左衛門 正徳4刊 小 奥付に「享保6年貝原先生編述目次、書林柳枝軒蔵版」とあり〔東路記から日光記に関することを抄出単行したもの〕

登榛名山記 <183-159>

平沢元愷 (旭山) 刊 (『漫游文集』第2冊の内)

^{はん}攀晃山記 <124-25><特1-779><鶯3105>

林 培斎 (樗宇) 天保10序 刊
中 付 『晃山吟草』〔天保10年江戸から日光への漢文紀行〕

山吹日記 <840-30>

奈佐勝臯 写 中〔江戸から足利学校往復の記〕

^{ふたらのやまづと}二荒酒山裏 <212-55>

写 大〔露の道芝 (成島司直) 絹川花見の記 (鈴木重嶺)、舞楽記 (山口清菴)、不太羅日記 (源秀賢) からなる〕

山吹日記 <120-105>

今城高秀 天明6成 刊 小〔足利学校参観の記〕

遊毛奇賞 <183-159>

平沢元愷 (旭山) 刊 (『漫游文集』第1冊の内)

上野国

^{こうじょう}高城紀行 <鶯370>

松田順之 写 中 付『雷電淵陪遊記』『観音山題名記』『根古屋城址漫記』〔天保3年江戸から高崎への漢文紀行〕

草津

草津温泉之記 <210-117>

巢雀子 宝暦5成 写 大〔尾張から東山道を上州草津へ至る。途中の道程及び草津温泉の記事が詳細〕

^{きんどうせきもん}再遊金洞石門記 <183-159>

草津温泉游記 <183-159>

平沢元愷 (旭山) 刊 (『漫游文集』)

第2冊の内)

草津游艸 〈鶺126/8-9〉
一万田 希 (如水) 天保9 稿本
2冊 小 [漢文紀行]

伊香保

伊香保紀行 〈166-277〉
跡部良顯 享保6刊 大 [元禄11
年江戸から伊香保温泉]

伊香保記 〈166-280〉
久松氏 (中川久盛室) 写 大
[寛永16年の紀行]

伊香保道之記 〈103-221〉
写 中 付 『善光寺高欄天井観進
疏』 前書と同内容

伊香保のくちすさみ 〈212-95〉
山岡俊明 宝暦14成 写 大 『橋
立の道のすさみ』と合写 [宝暦14
年江戸から伊香保]

伊香保の道行ぶり 〈147-87〉
油谷倭文子 大阪 増田源兵衛等
寛政2刊 大 [著者18才の時の
作。行文流麗にして当時の老練の学
者をして驚かしめたという]

游浴伊香保記 〈183-159〉
平沢元愷 (旭山) 刊 [『漫游文集』
第3冊の内]

武蔵国

入間川屋らずの雨 〈188-93〉

立羽不角(立羽千翁) 刊 2冊 中
[江戸から川越へ赴ける俳諧紀行]

小野六所両社の記 〈212-175〉
竹村立義 文政10成 写 大 絵入

川越松山之記 〈212-177〉
竹村立義 文化15成 写 2冊 (合
1冊) 大 [江戸から川越, 所沢
松山, 秩父辺を遊歴し, 沿道の寺社
の古碑古鐘等の金石文を拓本にしつ
つその名勝, 由来を著し見取図を描
いている]

同 上 〈W245-4〉
文政10写 大 絵入

山遊まごし雑志 〈831-82〉
杉原 燁 (半水) 天保5序 刊
中 [江戸から高尾山への漢文紀
行]

松蓮寺紀行 〈239-10〉
写 大 絵入

須加村如来堂紀行縁起 〈241-115〉
悟海 策逢堂藏版 嘉永元成 刊
大 [上野東叡山の住僧が埼玉郡忍
の須加村如来堂に來り勤行する記]

杉田日記 〈145-145〉
清水浜臣 文化4成 刊 [『県門遺
稿』第3冊の内] [文化4年正月
蒲田及び杉田へ梅見した時の雅文紀
行]

同 上 〈840-28〉
江戸 岡田屋嘉七等 文化7後序

刊 中

高尾山石老山記 〈101-81〉

竹村立義 文政10序 写 大 〔文政10年江戸から甲州街道を八王子に出、高尾山、石老山に登った際の紀行で挿絵が多い〕

秩父記 〈103-274〉

竹村立義 文政10序 写 中 絵入
〔文政5年所沢、吾野を経て秩父に入り、秩父札所三十四番をめぐる折の紀行。挿絵が多い〕

秩父順拝記 〈210-313〉

竹村立義 写 1冊（3冊の内天・地2冊亡失） 大 前書と同内容

都伎山日記 〈210-333〉

清水浜臣 写 中 〔文化12年熊谷付近の勝を探りたるもの〕

同 上 〈839-96〉

写 大

ひとつもの日記 〈214-233〉

田沢義章、法輪篇 刊 中 〔武蔵野の紀行にして武蔵野に関する和歌をも集め合せたもの〕

季夏松の葉 紀行 〈830-170〉

原 正道(徳斎) 天保3成 自筆本 大 〔河原村並に玉川附近の紀行〕

御岳一石両山記 〈101-79〉

竹村立義 文政10序 写 2冊 大 絵入 〔文政10年青梅街道を御岳から一石山に至り、倉沢を経て棚沢に

泊り、羽村の上水口をたずねて帰る。挿絵多し〕

御嶽山一石山紀行 〈W245-9〉

竹村立義 写 大 絵入 前書と同内容

三保道記 〈188-33〉

小山田(高田)与清 写 〔『松屋叢書』16の内〕 〔武州津久井郡三保郷の記〕

武蔵野紀行 〈127-1〉

北条氏康 天文15成 刊 〔『群書類従』巻339, 175冊の内〕 〔小田原から武蔵野を騎行した折の紀行〕

同 上 〈138-23〉 〈子-4〉

写 〔『扶桑拾葉集』巻25の内〕

同 上 〈238-1〉

〔『鶯宿雑記』234の内〕

百草紀行 〈210-315〉

竹村立義 文政10序 写 大 〔百草村松蓮寺への紀行。挿絵多し〕

百草松蓮寺の記 〈212-169〉

竹村立義 写 大 前書と同内容

江戸

江戸記行 〈わ918-1〉

釈 信海 写 〔『今古残葉』第10冊の内〕 〔江戸から東海道を大津へ〕

同 上 〈わ918-2〉

写 (『扶桑残葉集』第2冊の内)

さんそん
三澨一覽 〈125-158〉
松平定常(冠山) 写 2冊(合1冊) 中

すみ
角田川遊覧記 〈104-52〉
北村季文 天保14成 写 中

すみたの道の記 〈107-347〉
代思子等 写 中 [弘化5年の紀行]

東都紀行 〈229-302〉
辻言之(雪洞) 享保4自序 写
2冊 中 小宮山昌玄書入あり
〔江戸の地理に馴れない士のために
自ら歩いて記したもの〕

南畝花見の記 〈特1-427〉
大田南畝 寛政4成 写 大 『好
花坊糸桜歌三十首』と合 [寛政4
年江戸市内郊外各地への花見の記]

る
春の御ふね 〈104-53〉
成島信通(道筑) 著 文政2年成島
司直跋 写 中 [元文5年3月冷
泉, 葉室の両卿墨田川に遊覧したる
折の記]

ますおき
益興紀行 〈199-117〉
益興 写 中 [観桜の記]

江戸—近郊

井の頭紀行 〈別18-19〉〈YD1-178〉
土岐頼旨 天保7 手稿本 大
〔天保7年, 雨災の後の井の頭へ状
況視察に赴ける際の紀行〕

江戸近郊道しるべ 〈831-41〉
村尾嘉陵 稿本 26冊 中 [化政
天保年間に遊歴した江戸近郊諸方面
の紀行集。挿絵あり]

よも
四方の道草 〈188-498〉
村尾嘉陵 安政6写 9冊(合5冊)
中 前書と同内容

かつしか
葛飾紀行 〈103-28〉
風弦堂 写 中 (『風弦堂 日光
葛飾 紀行』の内)

近郊紀行 〈245-2〉
写 小 [文政7年頃の江戸近郊へ
の紀行]

近郊名勝文纂 〈鶯683〉
写 5冊 中 [本多忠統等の漢詩
文江戸名勝記集]

郊遊漫録 〈134-270〉
斎藤幸孝 自筆稿本 9冊 中
〔文化12・13年間『江戸名所図会』
編集のための探査記録〕

小金井橋観花記 〈鶯3920〉
文化3 写 中

こがねいばしにあそびおろかをみるのき
游小金井橋観桜花記 〈特1-2632〉
佐藤坦(一斎) 文化3成 写
中 [文化3年, 林祭酒に従い小金
井に観桜した時の漢文紀行]

小金井橋花見の記 〈ち-7〉
辻知篤 写 (『輪池叢書』第9冊
の内) [享和3年小金井に観桜し
た時の記]

小金橋に遊ぶ辞 〈183-384〉
写 (『不忍叢書』第10冊の内)

砂村記遊 〈鶺鴒1904〉
大槻清崇 (磐溪) 文久元写 中
〔漢詩文紀行〕

三餐余興 〈寄別15-11〉
大田南畝 自筆本 大 〔明和4年
下総葛飾及び武蔵玉川に遊びたる折
の漢文紀行〕

同上 〈232-259〉
写 大

玉川紀行 〈す-48〉
平 盛時 卷子本

玉川紀行 〈107-87〉
友田次寛 天保12成 写 (『南郊独
歩』と合1冊) 〔天保12年江戸か
ら多摩郡押立村への紀行〕

玉川紀行 〈210-277〉
成島東岳 (司直) 天保3成 写
〔『輪池叢書』外集14の内) 〔天保
3年高官に扈從して江戸城から玉川
へ遊ぶ記〕

調布日記 〈214-37〉
大田南畝 文化6自序 写 中
〔文化5・6年間の著者の奉命巡行
の記録。川崎から拜島・八王子に及
び、金石文をも加え、現状沿革を日
記体に述したのもの〕

同上 〈W119-27〉
〔『東海雜纂』坤の内) 前書と同内

容

南郊独歩 〈107-87〉
友田次寛 天保12成 写 (『玉川紀
行』と合1冊) 〔品川、池上、目
黒辺の紀行〕

花見の日記 〈831-91〉
津村正恭 自筆稿本 中 〔江戸市
内各地花見の日記〕

みづのさち 〈166-299〉
椎園主人 (峰屋茂橋) 弘化4成
写 2冊 中 〔江戸市内・近郊へ
の短文紀行を集めたもの〕

相模国

梅が浦 〈229-119〉
楓川常寛雲編并書 嘉永6識 自筆
本 2冊 (合1冊) 中 〔江戸か
ら浦賀〕

温泉名勝志 〈166-47〉
後藤栖鸞 江戸 鶴本平蔵 寛延4
刊 2冊 (合1冊) 中 〔上卷
『湯山土産』は相模の勝地を記し、
下卷『山路の月』は鎌倉金沢の勝を
記す〕

江の島
鎌倉 紀行笠の鯉 〈京乙-288〉
かなかわ
立羽不角 刊 2冊 (合1冊) 中
絵入り 〔元禄14年池田備角公を川崎
まで見送りした後、好柳、好角と共に
江島、鎌倉、金沢を遊覧せる紀行〕

金沢鎌倉紀行並梅そのの記 〈188-515〉
畠山常操（梅軒） 天保3成 写
中 〔天保2年金沢、鎌倉、江島、
杉田等への紀行〕

金沢記遊 〈209-339〉
鵜嶋（抱儀）編 天保5序 刊 小
付 別後日記 〔金沢、江の島、鎌
倉へ遊ぶ俳諧紀行〕

金沢游記 〈183-159〉
平沢元愷（旭山） 〔『漫游文集』第
3冊の内〕

相模州紀行 〈特1-3392〉
松本慎思著 岩崎常正写 文化4成
中 〔文化4年江戸から厚木、大山、
藤沢、鎌倉を廻る〕

相州浦賀巡覽記 〈106-82〉
山鹿高輔（素水） 弘化4成 写
大 〔弘化4年5月江戸を出発、相
房の海岸を巡覽した際の記録で内容
は相州海岸の紀行〕

相州三浦記行 〈211-584〉
白莫 写 中

相中紀行 〈ち-7〉
安達 修（清河） 安永8成 写
〔『輪池叢書』27 南海筆記の内〕
〔相州の名所へ遊歴した時の紀行
詩〕

^{ついで}追蘇遊録 〈127-295〉
佐藤 担（一斎） 享和2成 写
〔『愛日楼全集』42巻、7綴の内〕
〔享和2年武蔵国久良岐郡本牧の海

岸金屏へ遊びたる折の記〕

東福寺詣 〈189-301〉
源 長保 文政5成 写 中 〔西
浦賀の東福寺詣の記〕

柳堂紀行 〈214-121〉
坂本博約 天保10成 写 中 〔江
戸から江の島、金沢に遊びたる紀
行〕

江島・鎌倉

^{まのしま} 國島鎌倉諸遊記 〈183-159〉
平沢元愷（旭山） 刊 〔『漫游文集』
第1冊の内〕

江島紀行 〈854-43〉
美代子 文政3写 大 〔『信濃日
記』と合） 〔文政2年江戸から江
島への和歌を交へた紀行文〕

江の島日記 〈229-43〉
五葉舍全語 自筆本 中 〔慶応2
年の紀行〕

鎌倉紀行 〈232-88〉
宇多子爽校 写 3冊 大 〔名所
記にちかし〕

鎌倉紀行 〈鶯474〉
戸田 幹（它石子） 三条通 武村
市兵衛 元禄4刊 大 〔元禄3年
江戸から鎌倉への漢詩文紀行〕

かまくら日記 〈854-35〉
写 中

鎌倉日記 〈W244-3〉

徳川光圀 写 大〔延宝2年鎌倉の史蹟を巡覧して史料を探った旅日記〕

思夢阮車慶遊記 〈214-155〉

桃葉庵錦江(馬場正統) 稿本(『錦江稿本』第28)〔江戸から江ノ島・鎌倉へ遊ぶ〕

巡礼鎌倉記 〈140-246〉

釈 沢庵 京 山森六兵衛 刊 2冊(合1冊) 中 絵入〔寛永10年鎌倉から金沢江島巡拝の記〕

一橋第鎌倉紀行 〈140-150〉

写 大〔8丁の短文紀行〕

箱根

温泉旅行日記 〈188-427〉

官松 文化12成 写 中〔江の島に詣で、ついで箱根の温泉へ〕

湯沢紀行 〈146-164〉

貞享元跋 刊 大〔貞享元年江戸から塔の沢へ〕

同上 〈218-16〉

写 大 前書と同内容

〈東海地方〉

友千鳥 〈127-115〉

庵原守富 写 中 函, 絵入り
〔延享5年名古屋を出発、三河・尾張一帯の紀行〕

富士山

紹巴富士見記 〈127-1〉

(里村) 紹巴 刊(『群書類従』巻339, 175冊の内)〔永禄10年京都を出、東海道の各地より富士を眺め帰京した紀行〕

紹巴富士見道記 〈238-1〉

(里村) 紹巴 写(『鶯宿雑記』235の内) 前書と同内容

富岳雪譜 〈205-202〉

和久田 寅(叔虎) 市川其融 絵
天保8序 写 3冊 大〔巻1, 2は享和3年夏, 友人2人と須山口から登山し, 須走りを下り足柄, 小田原を経て江戸へ出る富士登山記。巻3は高田与清の『富士根元記〕

富士一覽記 〈915.5-Ka163hk〉

〈特2-669〉

香川景継(宣阿) 述 香川景樹 校
京都 出雲寺文次郎 元禄8成 天保5序 刊 大〔富士一覽といっても駿河まではいかず, 遠州白須賀で頂きを眺め踵をかえたもの。著者は香川景樹の高祖父でその百回忌記念に景樹が出版したものである〕

不字賀嶺日記 〈111-61〉

文化14成 写 大〔文化14年江戸から甲州を経て富士へ, 帰り東海道をもどる〕

富士紀行 〈138-23〉〈子-4〉

釈 堯孝 写(『扶桑拾葉集』巻18の内)〔永享4年將軍足利義教の

富士遊覧に随行した折の記)

よじをみるき
覧富士記

〈127-1〉

釈 堯孝 刊 (『群書類従』巻335,
173冊の内) 前書と同内容

富士紀行 〈138-23〉〈子-4〉

藤原(飛鳥井)雅世 写 (『扶桑拾
葉集』巻20の内) [永享4年足利
義教に従い京から富士見に下れる折
の紀行。歌を多く詠みこむ]

同上 〈127-1〉

刊 (『群書類従』巻335, 173冊の
内) 前書と同内容

富士御覧記 〈127-1〉

釈 宗長 刊 (『群書類従』巻335,
173冊の内) [永享4年の紀行]

登富士山記 〈183-159〉

平沢元愷(旭山) 写 (『漫游文集』
第1冊の内)

富士登山記 〈わ218-2〉

中山高陽 写 (『土佐国群書類従』
巻102, 122冊の内) [安永5年熱
海から富士へ]

富士日記 〈129-128〉

芙蓉亭 文政6成 自筆稿本 3冊
中 [文政6年難波から京・近江を
経て東海道を富士へ登山。帰路信濃
へ出、中山道を経て戻る。挿絵あ
り]

富士日記 〈111-97〉〈特2-668〉

賀茂季鷹 寛政2成 大阪 河内屋

茂兵衛 文政6刊 大 [寛政2年
7月江戸から富士への紀行で、山中
のことが詳細]

不二日記 〈106-97〉

釈 在融 天保14序 刊 大 付
『不尽山記』 [天保14年江戸から
富士への記、地理由緒を故書に考証
し、歌をも詠みこむ]

富士記 〈わ918-2〉

(雛屋)立圃 写 (『扶桑残葉集』
第12冊の内)

同上 〈わ918-1〉

(『今古残葉』第13冊の内) 前書と
同内容

富士詣行李の友 〈109-60〉

原 義胤(得齋) 稿本 中 [文
政11年江戸から甲州街道を経て富士
のすそのへ、帰路東海道を江戸へ]

伊豆国

伊豆日記 〈106-26〉

富秋園海若子(三河口太忠) 江戸
松屋善八 文政4序 刊 2冊(合
1冊)大 複本あり [江戸から三
島、北条、修善寺を経て天城山を越
え河津に出、海岸に沿って伊東へ行
き、又引返して下田へ出、更に西海
岸を沼津へ至る]

湯泉録 湯泉再録 〈鶯1279〉

林 訖(樞宇) 刊 2冊 大

[熱海、箱根温泉入浴の紀行。書中
天保5年の記載あり]

温泉前後録 〈189-96〉
林 颯(樺宇) 天保9序 刊 大
前書と同内容

たまぐしげ
玉匣両温泉路記 〈854-36〉
原 正奥 天保10成 手稿本 大
〔江戸から伊豆、箱根往復の記〕

ゆづとうきしょう
游豆紀勝 〈わ081-4〉
安積 信(良斎) 写 (『明遠館叢書』第41) 〔天保5年江戸から伊豆往復の漢文日記〕

同 上 〈125-31〉
耕雲斎蔵版 天保11序 刊 中
『東省統録』と合刻

同 上 〈124-230〉
写 (『桜園叢書』巻23の内)

熱海

熱海紀行 〈わ218-2〉
中山高陽 写 (『土佐国群書類従』巻102, 122冊の内) 〔安永5年江戸から熱海へ、帰路駿河を経て江戸へ戻る〕

熱海行記 〈141-71〉
宮 正葩 元禄10成 写 大 〔元禄9年江戸から熱海へ、返路片瀬、鎌倉等を経て帰る〕

伊豆の道草 〈W119-23〉
赤井忠行 天明4序 刊 大 〔江戸から熱海〕

たこう
多幸日記 〈830-111〉

本間遊清 文政12序 横山桂子写
3冊(合1冊) 大 〔江戸から熱海〕

はしりゆこう
走湯行記 〈166-278〉
京極高門 刊 大 〔元禄15年江戸から熱海への紀行にして和歌を詠みこむ〕

とう
遊豆小志 〈わ081-4〉
松崎 復(慊堂) 文化元成 写
〔『明遠館叢書』40の内) 〔文化元年掛川太田氏の世子資言に従って熱海の温泉に浴した時の漢文紀行〕

七島

七島日記 〈139-8〉 〈857-140〉
小寺応斎 文政7序 刊 3冊 大
(前者は合1冊) 〔寛政8年幕府は伊豆代官に命じて八丈島を初め伊豆諸島を巡察せしめた。本書はその時の日記で上・中巻はその記事。下巻は民俗風俗土産の画を載す〕

伊豆七島日記 〈197-179〉
小寺応斎 3冊(合1冊) 上巻写
中・下巻刊 前書と同内容

同 上 〈863-1〉
写 中 前書と同内容なるも抄本

巡島日記 〈857-177〉
鈴木半右衛門 文化8跋 写 大
絵入

八丈しまめぐりの記 〈に-3〉
鈴木半右衛門 写 大 絵入 前書

と同内容

^{ずしょうこうき}
豆嶼行記 〈特1-2970〉

阿部樸斎 写 小 [文久2年幕府
軍艦に乗船、八丈島、小笠原諸島巡
島の記]

八丈島記 〈190-49〉

写 中 絵入

^{ぬぐり}
南島回日記 〈863-201〉

写 中 絵入

^{ほん}
南汎録 〈183-318〉

羽倉用九(簡堂) 天保9成 刊
〔『小四海堂叢書』第2冊の内〕

〔天保9年3月伊豆諸島巡視の官命
を帯び江戸を発船三浦三崎の城島か
ら大島、利島、新島、神集島、三宅
島、八丈島等を巡視6月江戸へ帰
る。内でも八丈島の記事最もくわし
い〕

駿河国

^{せいけんじ}
清見寺紀行 〈245-44〉

山田貞実 天保14跋 刊 小 [文
政6年頃駿府から興津清見寺に遊ん
だ紀行で、途中の旧蹟の歴史や歌を
も記す。挿絵多し]

三河国

^{しゅうふう}
秋風紀行 〈863-99〉

方明、五雄編 文化元輯 刊 中
〔俳諧紀行〕

^{まつがね}
千代の松根 〈103-9〉

竹尾善筑(次春) 天保5写 中
〔岡崎、松平郷等の寺院廻覧記〕

飛騨国

^{ゆはとろ}
幽討余録 〈229-316〉

曾我景章 本斎蔵版 嘉永5自序
慶応元刊 2冊(合1冊) 中
〔漢文で書かれた飛騨国の紀事。地
誌に近し〕

美濃国

^{あみだ}
美濃国阿弥陀滝遊覧紀行 〈104-4〉

小田切忠近(春江) 写〔『尾張雜
書』の内〕 [文政5年尾張からの
紀行]

^{おじま}
小島の口ずさみ 〈127-1〉

藤原(二条)良基 刊〔『群書類
従』巻333, 172冊の内〕 [文和2
年兵乱をさけて美濃小島へ下向の
記。歌を多くよみ入れている]

同 上 〈238-1〉

写〔『鶯宿雜記』228の内〕

ふち河の記 〈127-1〉

一条兼良 刊〔『群書類従』巻336,
173冊の内〕 [文明5年頃奈良から
藤川往復の記。歌を多くよみ入れて
いる]

同 上 〈138-23〉 〈子-4〉

写〔『扶桑拾葉集』巻21の内〕

藤川の記 〈238-1〉

写〔『鶯宿雜記』232の内〕 前書

と同内容

一条禅閣兼良美濃道記 〈140-19〉
一条兼良 寛文12刊 中 前書と同
内容

美濃紀行 〈わ915.4-4〉
兎庵老人 天正元成 (『室町殿伊勢
御参宮記』の付) (天正元年美濃
路への記)

尾張国

尾張紀行 〈124-230〉
赤染衛門 写 (『桜園叢書』巻30
の内)

同上 〈わ918-1〉
写 (『今古残葉』第2冊の内)

名古屋の日記 〈139-18〉
本居大平 写 大 (宣長, 春庭等
と伊勢松阪から名古屋へ赴る折の日
記で和歌を多く収録している)

尾陽総社参詣記 〈210-121〉
一秋 宝永4成 写 中

岩作長湫岩崎道之記 〈104-4〉
朝岡正章 写 (『尾張雑書』の内)
〔文政5年の紀行〕

〈北陸・甲信越地方〉

北陸・甲信越地方諸国にわたるもの

片歌道のはじめ 〈229-279〉
建部綾足 刊 中 (宝暦13年江戸
から信越地方等への俳諧紀行)

葛巻権佐北陸紀行 〈り-59〉
写 中 (元禄5年下旬江戸から北
陸への紀行)

夏ころも 〈235-338〉
(東花坊) 支考編 京 柏屋勤兵衛
宝永5成 刊 中 (宝永5年夏支
考が木曾路を経て越後高田から新潟
におもむき直江津に引返すまでの俳
諧紀行)

白山草木志 〈847-136〉
畔田伴存 昭和年間写 2冊 中
〔上巻『白山草木志』下巻『越前国
福井から白山への道の記』〕

北越記 〈191-598〉
秀雄 (菅江真澄) 写 中

北遊紀行 〈103-241〉
高橋克庵 安政4刊 中 (江戸か
ら新潟へ至る漢文紀行)

甲斐国

甲斐日記 〈107-188〉
清水浜臣 写 中 (文政元年江戸
から相州, 富士の裾野を経て甲斐身
延山, 駿河久能山へ登る)

峡中記遊 〈107-86〉 〈W242-1〉 〈鶺981〉
菊地 駿 求諸己斎蔵版 文久元刊
中 (『遊御獄記』『遊羅漢寺山記』
『大滝山雌雄瀑記』の三部からなる
漢文紀行)

峡中紀遊草 〈191-730〉 〈鶺982〉

川本 貞 (衡山) 可以興館蔵版
万延元序 中 刊 [漢詩文紀行]

峡中^{おんこう}半年行 (鶉274)
久貝宗之 (岱) 嘉永5写 中 表
題 温斎辨稿 [漢詩紀行]

甲州道中記 (183-389)
霞江庵翠風 慶応2序 写 5冊
小

津久井日記 (107-288)
撫草庵 (大西) 寛雲 写 5冊 (合
2冊) 中 [天保9年江戸から甲
州への紀行]

那まよみ日記 (103-141)
松本文雅 文久元自序 写 2冊
中 [江戸から甲斐]

^{なみ}並山日記 (せ-56)
黒川春村 嘉永3成 写 8冊 大
[嘉永3年江戸から甲州街道を甲州
へ到り、さらに身延山を経て、富士
のすそのを東海道へ出、吉原、沼津、
箱根等を巡覽して江戸へ帰る。途中
の寺社、宝物、古文書までもさし絵
入りで説明した詳細なる紀行。甲州
が主となっている]

風流使者記 (141-111)
荻生徂徠 宝永元成 写 中 [江
戸から甲州]

身延紀行 (190-346)
中村経年 (松亭金水) 写 中
[万延元年江戸から甲州の身延山へ
帰路に伊豆、熱海等を経て戻る]

身延道の記 (138-63)
元政 (深草) 万治2成 写 大
[万治2年79才の老母を伴い京から
東海道を身延へ至り更に江戸へ下
る。帰途は名古屋から美濃へ入り近
江を通る。詩歌を多く詠みこんでい
る]

同上 (わ918-1)
写 ([『今古残葉』第15冊の内])

信濃国

伊那の中路 (き-23)
菅江真澄 写 ([『真澄遊覧記』第26
の内])

木曾採葉記 (特7-89)
水谷豊文 文化7跋 写 2冊 大

くめじの橋 (き-23)
菅江真澄 写 ([『真澄遊覧記』第27
の内])

^{さいしやうどう}最勝洞記 (183-159)
平沢元愷 (旭山) 写 ([『漫遊文集』
第2冊の内])

更科紀行 (103-23)
松尾芭蕉 寛政5序 刊 中

信濃日記 (854-43)
金子春経 文政3写 ([『江島紀行』
と合写) [文政3年江戸から信濃
へ]

わがこころ (き-23)
菅江真澄 写 ([『真澄遊覧記』第26

の内)〔姨捨山、善光寺、浅間温泉等〕

善光寺

善光寺紀行 〈127-1〉
釈 堯恵 刊 (『群書類従』巻336、173冊の内)〔寛正6年越中から善光寺へ至る。歌を多くよみ入れる〕

同 上 〈238-1〉
写 (『鶯宿雑記』232の内)

越後国

佐渡日記 〈189-232〉
石野広道 写 (『清水千清遺書』3の内)〔佐渡から信濃をへて江戸へ到る〕

越中国

登立山記 〈特1-2810〉
大塚新左衛門(敬業) 水石園 弘化2刊 小〔7丁の小冊子であるが立山の登山文献としては最初の単行本といわれている。天保11年の夏同行7名で2泊3日の漢文登山記録〕

能登国

能登路の記 〈244-32〉
写 2冊 中

能登遊記 〈さ-24〉
金子有斐 文化13成 稿本 2冊
〔能登の漢文遊記。2冊の内1冊は

全冊風景画〕

和倉湯治夢物語 〈202-264〉
佐藤元知 写 4冊(合2冊) 中
〔越中から和倉温泉へ〕

加賀国

江沼郡山代紀行 〈189-283〉
佐藤元知 写 2冊(合1冊) 中
〔文政12年の山代温泉への紀行〕

<近畿地方>

近畿地方諸国にわたるもの

天路の橋 〈わ218-2〉
今村 楽 写 (『土佐国群書類従』巻103、123冊の内)〔京から大阪へ赴いた折の記〕

伊具知濃宇曾 〈235-84〉
多田義方 正徳5刊 中

伊勢紀州採葉記 〈特1-1977〉
文政6写 2冊 中 (『蘭山採葉記』の内)

同 上 〈特7-297〉
慶応4年伊藤圭介手写 中 前書と同内容

同 上 〈特7-296〉
小野蘭山 明治6写 中 『藤子南紀採葉志稿』と合

思出草 〈244-421〉
津村正恭(涼庵) 寛政6序 写 8冊(合4冊) 中〔寛政4年江戸から難波、大和、京を歴遊した時

の紀行]

草の螢 (149-39)

多田義方 桜田和泉町 鶴本平蔵
寛延4刊 中 「欠唇の虚」「道草」
「浦の波」「筆雫」「酔中吟」の5
篇から成る。〔吉野、高野山、紀州
兵庫、播磨、有馬温泉、大阪、京都
を巡覧して勝地を記す〕

さめざめ草 (191-609)

遠藤日人著并書 自筆本 中 〔撰
津播磨辺の紀行〕

葦笠雨談 (103-144)

滝沢 解(曲亭馬琴) 江戸 蔦屋
重三郎等 享和4刊 3冊(合1冊)
中 〔享和2年に著者が、東海道を
経て京洛浪華地方を遊覧した時の見
聞録。上巻は東海道、中巻は京洛、
下巻は浪華のことを記す〕

三奇一覽 (104-267)

伊藤長胤(東涯) 伊藤重光 弘化
4跋 刊 大 〔享保6年近江、丹
波、静原等遊覧の漢詩文紀行〕

同上 (鶉1344)

嘉永元序 刊 大 錦林王府活字印
記とあり

三行記 (わ918-2)

烏丸資慶 写 (『扶桑残葉集』第7
冊の内) 〔京から撰津、河内を
経て高野山に詣て帰路河内、和泉に出、
京へ帰る〕

十国巡覧記 (111-287)

写 3冊 中 〔天保9年五畿内両
丹等巡検使派遣の際における随行者
の私記〕

城和撰諸州採葉記 (特7-591)

丹羽松斎 手稿本 小

同上 (特7-590)

手稿本 特小

辛巳記行・辛巳後記行 (188-73)

宝暦11成 刊 (『夢中行脚記』の
内) 〔伊勢から京都へ〕

鈴屋大人都日記 (915.5-I689m)

石塚龍庵 江戸 英大助 文政2跋
刊 2冊 大 〔寛政5年本居宣長
が都へ上りたる時随従して記した日
記〕

西北紀行 (291.09-Ka183s)

貝原益軒 刊 (『諸州巡覧記』の
内) 〔元禄2年京から山城西部、
丹波、丹後、若狭、西近江を巡り京
へ帰る〕

同上 (特1-2669)

(『諸州巡覧記』の内)

同上 (わ918-1)

写 (『今古残葉』第17冊の内)

勢遊脚 (鶉1911)

川合孝衡(春川) 松坂 深野屋利
助等 文化3序 刊 大 〔文化2
年紀伊から美濃へ至る〕

仙果浪花道中記 (827-90)

高橋仙果 自筆稿本 小 〔熱田か
ら浪花へ至る〕

^{そのはま}
其浜ゆふ 〈107-257〉

朝叟・服部嵐雪編 宝永2成 写
中〔宝永2年京都から伊勢、紀伊
を巡り大阪へ至る俳諧紀行〕

旅のおぼえ 〈238-1〉

吉村静軒 写（『鶯宿雑記』299の
内）〔京、近畿辺の記〕

^{とうらい}
藤栄春の記 〈188-410〉

藤栄軒如蟹 小石川 水田庄左衛門
泉屋茂兵衛 元禄12刊 中〔京・
近江〕

登山観海記 〈183-159〉

平沢元愷（旭山） 写（『漫游文集』
第1冊の内）〔摩耶山へ上り望海
の漢文紀行〕

^も
夏ころ裳 〈239-75〉

本居大平 写 中〔松坂から伊勢
神宮へ詣し時の紀行、和歌を多くよ
みこむ〕

夏衣 〈104-95〉

写（『春の錦』と合写） 前書と同
内容

南遊紀行 〈291.09-Ka183s〉

貝原益軒 刊（『諸州巡覧記』の
内）〔元禄2年京から山城南部、
河内、和泉、大和諸地方を巡覧した
る記〕

同上 〈わ918-1〉

写（『今古残葉』第18の内）

^{ねさ}
幣ぶくろ 〈229-48〉

枇杷園士朗、鷗巢都貢編 平安 辻
井吉右衛門、井筒屋庄兵衛 安永3
刊 中〔安永3年尾張から京阪地
方への俳諧紀行〕

^{のちのうま}
後午の日記 〈181-225〉

荒木田麗子 天明2成 写（『荒木
田麗子著述書』22の内）〔山城、
大和、摂津遊覧の記〕

^{ばいごう}
梅桜日記 〈148-46〉

近藤芳樹 文久元成 刊 小〔大
阪、奈良等へ〕

春の錦 〈239-74〉

本居大平 文化13成 写 中〔和
歌山から京阪附近漫遊の記、和歌を
多くよみこむ〕

同上 〈104-95〉

写『夏衣』と合写

^{ふうじん}
風塵記 〈166-251〉

平間長雅 元禄13成 写 大〔近
畿の紀行、和歌を多くよみこむ〕

^{みそ かぐさ}
三十日草 〈わ918-2〉

釈似雲 写（『扶桑残葉集』第16
冊の内）〔享保6年京から伊勢神
宮への往復の記、和歌を多くよみこ
む〕

同上 〈わ918-1〉

写（『今古残葉』第24冊の内）

恵の露 〈124-230〉

鈴木重嶺 文久3成 写（『桜園叢
書』巻41の内）

^{もも}百たらずの日記 〈200-119〉
石瓦翁撰 天保9成 写 中 〔江戸から東海道をのぼり京、大阪等近畿地方を廻り中山道を経て帰る〕

山城大和見聞随筆 〈101-149〉
梶野良材 写 2冊 大

^{とつがい}山本篤慶採葉記 〈特7-537〉
山本篤慶（錫夫） 伊藤圭介手写
4冊 中 〔文政5年から天保3年頃まで近畿地方での採葉の時の日記〕

和紀記行 〈わ918-2〉
岡西惟中 写 〔『扶桑残葉集』第12冊の内〕 〔吉野、高野、和歌浦等への吟詠行〕

同上 〈わ918-1〉
写 〔『今古残葉』第12冊の内〕

伊勢国

伊勢路の記 〈141-104〉
源 欣応 丹波屋伝兵衛 明和4成
刊 中 〔明和4年3月住吉から大和を経て伊勢へ〕

伊勢路の記 〈わ918-2〉
加藤景範（竹里） 写 〔『扶桑残葉集』第15冊の内〕

伊勢日記図絵 〈午-100〉
瓢仙老人画 文久2序 1帖 大
絵のみ

^{かつしげ}勝成紀行 〈181-274〉
勝 勝成 宝暦12成 写 大 〔伊勢国多気村至久居の紀行〕

^{しょうち}勝地回覧 〈104-92〉
度会常昭 享保4序 写 大 〔伊勢山田の附近に住む著者が国内の勝地を遊覧した紀行を集めたもので、次の項がある。1 鷲嶺登覧、2 国東山登覧、3 二見一本松勝覧、4 飯盛山登覧、5 一ノ瀬鸚鵡石槿柄島遊記〕

勢州採葉志 〈197-71〉
小野蘭山 写 大

勢遊志 〈鶯1912〉
伊藤長胤（東涯） 京都 野田弥兵衛 享保15刊 中 付『響石図志』
〔京の東涯が度会郡一の瀬にある鸚鵡石の見物をすませ、宮川を下り太廟に詣て朝熊に登り京へ帰るまでの紀行と詩〕

同上 〈特7-403〉
京都 林芳兵衛、林権兵衛 天保12刊 中

勢陽遊記 〈107-333〉
熊谷立閑 高辻通雁金町 中村孫兵衛 延宝6刊 大 〔京から寛見上人其他と同行して伊勢に遊び名勝を訪ね詩歌を詠じた吟詠紀行〕

椿まうでの記 〈111-230〉
村田春海 天明7成 刊 〔『ふたき日記』の内〕 〔天明7年3月伊〕

- 勢石薬師の附近にある日本武尊の白鳥陵，椿明神の古蹟を見物した折の記]
- 同上 (145-145)
刊 (『泉門遺稿』第5冊の内)
- 西村寒泉採葉記 (特7-439)
西村広林 (寒泉) 明治19年丹波修治写中 (弘化2年から文久3年頃までの伊勢国を中心とした採葉の日記)
- 伊勢大神宮
- 伊勢紀行 (127-1)
釈 堯孝 刊 (『群書類従』巻334, 172冊の内) [永享5年足利義教に随い大神宮に参詣した時の記，歌を多くよみこむ]
- 同上 (238-1)
写 (『鶯宿雑記』231の内)
- 伊勢紀行 (188-396)
向井去来 柿寿窓蔵版 嘉永3刊中 (『ねころび草』と合刻) 去来，丈草の150回忌追福の為出版したもの [妹千子を伴って伊勢に参宮した時の道の記]
- 伊勢大神宮参詣記 (138-23) (子-4)
坂十仏 写 (『扶桑拾葉集』巻16の内) [康永元年の伊勢詣]
- 伊勢詣の記 (わ291.5-2)
神谷為政 安政4成 写 大
- 伊勢詣の記 (わ218-2)
扶山 写 (『土佐国群書類従』巻106, 126冊の内) [土佐から伊勢大神宮へ]
- 伊勢まうでのにつき (106-227)
中村いと 写 中 [文政8年江戸から伊勢へ]
- 伊勢まうでの日記 (わ918-1)
井神寛斎 写 (『今古残葉』第27冊の内)
- 佐野の和多理 (わ237-292)
釈 宗碩著 高田清年編校 高田与清頭書 江戸 須原屋茂兵衛等 文政7刊 大 [宗長にさそわれて大永2年宗碩法師が参宮し，連歌興行をした折の日記]
- さののわたり (わ915.4-4)
釈 宗碩 写 (『室町殿伊勢御参宮記』の内) 前書と同内容
- とよみやがわなごりのおほらえ
豊宮川名残の御袂除 (211-189)
真清田 (佐分) 清円 写 中 [寛延2年の伊勢神宮参詣記]
- 宮川日記 (141-93)
多田義俊 (南嶺) 延享3成 写 3冊 (合1冊) 大 [京から伊勢大廟に詣でたるもの，書中神宮の故実，文庫の事その他の雑事を詳記している]
- 室町殿伊勢御参宮記 (わ915.4-4)
応永31成 写 大 付『白河紀行』『さののわたり』『美濃紀行』(『統

群書類従』原本) (応永31年12月
足利義持の伊勢参宮記)

紀伊国

紀南遊覧ゆうのう (229-201)

坂本俊豈(天山) 写 (『彦城雑記』
の付録) [寛政10年浪華から、紀
州各地遊覧の紀行。目的は泰地浦の
鯨捕見物]

君のめぐみ (140-59)

本居宣長 寛政6成 写 大 [紀
州侯の招きに応じ、伊勢松坂から和
歌山へ赴き、紀伊の諸勝を探る]

紀見のめぐみきみ (213-375)

本居宣長 文化12刊 (『隻玉紀行』
の内) 前書と同内容

鷲峰先生遊紀しゅうほう (鶯4048)

写 中 [万延元年京から南紀へ遊
ぶ漢文紀行]

玉津島まうでの記たまつしま (わ918-1)

野間友真 写 (『今古残葉』第38冊
の内)

藤子南紀採葉志稿とうし (特7-296)

小野蘭山門人藤某手記 『伊勢紀州
採葉記』と合写

南紀採葉志 (197-72)

小野蘭山 写 大

山菅やまかげ (YD1-162) (別12-4)

加納諸平 文政13成 手稿本 大
[根来寺花見の記]

高野山

高野参詣記 (127-1)

三条西実隆 大永4成 刊 (『群書
類従』巻338, 174冊の内) [京か
ら大阪, 住吉, 堺, 根来を経て高野
山へ至る。和歌を多くよみこむ]

住吉紀行 (138-23) (子-4)

三条西実隆 大永4成 写 (『扶桑
拾葉集』巻24の内) 前書と同内容

高野山参詣記 (138-23) (子-4)

三条西公条 天文22成 写 (『扶桑
拾葉集』第25の内) [俳諧師紹巴
と共に奈良に遊び高野山に参詣し又
大和の寺塔名所を巡るの記]

高野日記 (わ081-5)

釈 頌阿 写 (『百瀬川』1の内)
[高野山参詣の記にして和歌をよみ
こむ]

同上 (138-23) (子-4)

写 (『扶桑拾葉集』第15の内)

同上 (124-230)

写 (『桜園叢書』巻30の内)

南山紀行 (111-68)

崖(熊野)弘毅 寛政元刊 大
[漢文紀行]

熊野

熊野遊記, 同名勝図画 (111-5)

北圃恭 芙蓉画 東都 須原屋茂兵

衛 寛政13刊 3冊(合1冊) 大
〔天・地・人の3巻で天の巻は熊野
遊記, 地・人2巻は熊野名勝図画と
題簽にある。天の巻前半が漢文の遊
記, その後半と地の巻は熊野名勝図
画, 人の巻は芙蓉の南紀名勝の説
文。北圃恭は須原屋茂兵衛で芙蓉と
共に紀州の人〕

後鳥羽院熊野御幸記 <127-1>
藤原定家 建仁元成 刊〔『群書類
従』巻329, 170冊の内〕〔建仁元
年10月後鳥羽天皇熊野行幸の次第を
詳記したもの〕

三山記略 <103-49>
菊池元習(西臯) 思玄亭藏版 天
保14跋 刊 中〔和紀二州の山水
奇蹟を記した漢文紀行, 挿絵多し〕

近江国

からき
幸崎紀行 <124-230>
儀同三司母 写〔『桜園叢書』巻30
の内〕

同 上 <わ918-1>
写〔『今古残葉』第2冊の内〕

三塔巡礼記 <127-1>
三条西公条 天文23成 刊〔『群書
類従』巻481, 245冊の内〕〔天文
23年京都の戦乱を避けて嵯峨二尊院
に寄寓の折, 叡山の三塔へ参詣した
記〕

石山

石山記行 <わ918-1>
儀同三司母 写〔『今古残葉』第2
冊の内〕

同 上 <124-230>
写〔『桜園叢書』巻30の内〕

石山記行 <わ918-2>
平 祐之 写〔『扶桑残葉集』第5
冊の内〕〔明和5年京から石山寺
へ〕

同 上 <わ918-1>
写〔『今古残葉』第36冊の内〕

石山月見記 <127-1>
三条西公条 刊〔『群書類従』巻
481, 245冊の内〕〔天文24年8月
京都から紫式部の源氏物語に材をも
とめた連歌遊びのため石山寺に行き
し折の紀行〕

同 上 <138-23> <子-4>
写〔『扶桑拾葉集』巻25の内〕

石山の記 <わ918-1>
富士谷成章 写〔『今古残葉』第39
冊の内〕

石山詣之記 <わ918-1>
松永貞徳 写〔『今古残葉』第9冊
の内〕

同 上 <わ918-2>
写〔『扶桑残葉集』第4冊の内〕

山城国

石清水参詣道記 〈W227-2〉
三条公睦 自筆 嘉永5成 横長大
本

笠置紀行 〈101-151〉
梶野良材 天保2写 大 [京都か
ら木津に出て笠置へ向う道中記]

八瀬やせの記 〈わ918-1〉
武者小路夷陰 写 (『今古残葉』第
23冊の内)

山城名所紀行 〈123-60〉
皇都 弘章堂 山本長兵衛 正徳4
刊 3冊 中 [京を初め山城各地
の名勝記で地誌に近いが普通の地誌
と趣を異にする]

京都

北山殿行幸記 〈わ210.4-54〉
藤原(一条)経嗣 写 大 [応永
15年後小松天皇が足利義満の北山別
荘に行幸された時の紀行]

北山行幸記 〈138-23〉〈子-4〉
藤原(一条)経嗣 写 (『扶桑拾葉
集』巻17の内) 前書と同内容

同上 〈わ304-54〉
写 大

清水寺花見記 〈わ918-1〉
(雛屋)立圃 写 (『今古残葉』第
13冊の内)

同上 〈わ918-2〉
写 (『扶桑残葉集』第12冊の内)

雲のころも 〈W119-13〉
中島広足 写 中 [安政7年京の
花見行]

京遊紀述けい 〈141-95〉
篠本 廉 安永6成 写 大 [安
永5年著者京にとどまれる折、市内
外名所旧蹟を遊覧して書留た記]

西京独案内 〈229-226〉
永野孫次郎 写 (『永野氏紀行』2
の内)

高雄山巡覧記 〈211-322〉
清水谷実業 写 中 [高雄山に紅
葉を見るの記]

高雄山に紅葉を見る記 〈わ918-2〉
高松重季 写 (『扶桑残葉集』第6
冊の内) [享保20年の紀行]

同上 〈わ918-1〉
写 (『今古残葉』第26冊の内) 前
書と同内容

都紀行 〈140-244〉
萩原貞宅 元治2成 写 2冊(合
1冊) 中 [元治2年都見物の時
の日記]

都の手ぶり 〈106-18〉
浅香山井(久敬) 元禄11成 写
6冊 大 [巻1 『ひなの道づれ』
巻2~4 『九重のすさみ』 巻5
『越の家つと』 巻6 『鞍馬詣道

くさ及大原道の記』

大原

大原記 〈189-232〉

写 (『清水千清遺書』20の内)

大原紀行 〈わ918-1〉

加藤盤斎(磐斎) 写 (『今古残葉』
第14冊の内)

同上 〈わ918-2〉

写 (『扶桑残葉集』第2冊の内)

嵯峨

嵯峨記 〈127-1〉

藤原(九条)種通 天正元成 刊
(『群書類従』巻481, 245冊の内)
〔京から嵯峨へ遊びし折の記〕

嵯峨記 〈わ918-1〉

雛屋立圃 写 (『今古残葉』第13冊
の内)

同上 〈わ918-2〉

写 (『扶桑残葉集』第12冊の内)

嵯峨名月記 〈わ918-1〉

六字堂宗恵 写 (『今古残葉』第12
冊の内)

嵯峨遊覧記 〈138-23〉 〈子-4〉

藤原(冷泉)為景 写 (『扶桑拾葉
集』巻30の内)

志加聞 〈107-177〉

(堀内)雲鼓 大阪 瀬戸物屋伝兵

衛等 享保13刊 中 〔嵯峨小倉山
へ鹿聞きに行った折の記〕

丹後国

天橋遊舳 〈138-69〉

藤原成祭 毓徳堂蔵版 文政8識
刊 大 〔寛政6年天橋立に遊ぶ漢
文紀行〕

橋立の道のすさ美 〈212-95〉

山岡俊明 写 大 〔伊香保のくち
すさみ〕と合写

但馬国

城崎温泉紀行 〈859-13〉

尹 隆 安永4成 昭和10写 大
(岩瀬文庫本の写)

但馬紀行 〈107-298〉

撫草庵(大西)寛雲 写 2冊 中
〔江戸から東海道を大阪へ出、但馬
へ向い近畿地方を巡遊して中山道を
帰る〕

但州浴泉記 〈211-249〉

写 中 〔寛政12年尾張熱田から伊
勢、伊賀、大和、紀伊、和泉、摂津、
播磨を経て但馬湯の島温泉に浴し、
丹後、丹波、山城、近江、伊勢を過
ぎ尾張へ帰る。沿道の勝地を詳細に
記す〕

但泉紀行 〈213-279〉

新宮涼庭(鬼国山人) 駮豎齋蔵版
弘化3序 刊 大 〔京から城崎温
泉へ赴ける漢文の道の記〕

湯島紀行 〈830-79〉
永井精古 写 大 〔淡路から城崎へ〕

但^州湯島の道草 〈190-51〉
道生庵主人 京都 吉野屋甚助等
天保9序 刊 2冊 中 〔生野から城崎へ〕

播磨国

播磨紀行 〈107-76〉
井田貫琛妻 天明5成 写 中
〔天明5年伊勢から播磨に遊び京へ帰る〕

摂津国

大阪一覽記 〈229-226〉
永野孫次郎 写 〔『永野氏紀行』3の内〕

金龍寺古曾部伊勢寺道の記 〈わ918-1〉
貝原益軒 写 〔『今古残葉』17冊の内〕

須磨日記 〈202-176〉 〈特2-670〉
香川景周編 弘化4序 刊 大
〔京から須磨明石の海浜、布引瀑布摩耶山に遊び、帰路昆陽池古曾部等の古蹟を探る〕

須磨の記 〈わ081-9〉
香川景周 写 〔『中古叢書』第70冊の内〕 前書と同内容

須磨の記 〈わ918-1〉
写 〔『今古残葉』第1冊の内〕

^{とぎわ}常磐日記 〈123-23〉
土師熊文 写 〔『三十幅』9の内〕
〔茨木常磐辺の旅行記〕

難波日記 〈わ918-1〉
京極長高 写 〔『今古残葉』第23冊の内〕 〔享保9年江戸から東海道を難波へ〕

同 上 〈わ918-2〉
写 〔『扶桑残葉集』第5冊の内〕

遊難波記 〈わ918-1〉
有賀長伯 写 〔『今古残葉』第22冊の内〕 〔正徳4年京から難波へ〕

同 上 〈わ918-2〉
写 〔『扶桑残葉集』第9冊の内〕

^{みのお}箕面山遊行の記 〈わ918-1〉
井神寛斎 写 〔『今古残葉』第28冊の内〕

有馬

^{おんとう}有馬温湯記 〈鶯3900〉
林 道春(羅山) 堀 正意(杏庵) 写 中 〔林道春は元和7年の夏、尾藩の儒医 堀正意は寛永4年秋前後に有馬温泉に入浴した折の漢文の記。道春は温泉の由来と名所の吟詠、正意は紀行と温泉地熱の力を論じたもの〕

有馬山温泉記 〈291.64-Ka183a〉
貝原益軒 京都 茨城多左衛門 宝

永8刊 小 [京から有馬への道の記]

同上 (238-1)
写 (『鶯宿雑記』34の内)

有馬日記 (237-121)
本居大平 天明2成 写 大 [天明元年伊勢から有馬へ]

有馬入湯記 (104-231)
写 (『叢書料本』29の内)

有馬之日記 (244-409)
(五流斎) 布門 元文年間 刊 中
大阪 安堂寺町 村上清藏彫工
[浪花の俳文布門が友人と元文3年7月から8月まで有馬温泉に入湯しつつ近在諸方に遊山俳会し暮す日記]

温泉再遊 (232-172) (鶯278)
釈 元政 (日政) 自堅子序 刊
(『温泉遊草』の内)

温泉遊草 (232-172)
釈 元政 (日政) 慶元堂梓 寛文8序 刊 中 付 『温泉再遊』
[多病の元政は寛文6年と7年の2回有馬温泉に入浴している。これを2回に分けて記したもので初めが漢文、2回目は和文で記す。2回目が温泉再遊である]

温泉遊艸 (鶯278)
釈 元政 (日政) 慶元堂梓 寛文8序 刊 中 付 『温泉再遊』
前書と同内容

住吉

將軍義詮難波詣記 (わ915.4-5)
足利義詮 延宝5写 大 [貞治3年京から難波、住吉へ至る]

將軍義詮住吉詣記 (202-94)
足利義詮 写 大 前書と同内容

住吉まうで (138-23) (子-4)
写 (『扶桑拾葉集』巻14の内) 前書と同内容

すみよし詣 (午-10)
足利義詮 天明2年 大田南畝写 大 『扶桑拾葉集』よりの写 前書と同内容

住吉詣 (238-1)
足利義詮 写 (『鶯宿雑記』229の内) 前書と同内容

宝篋院殿住吉詣記 (127-1)
足利義詮 刊 (『群書類従』巻333, 172冊の内) 前書と同内容

河内国

河州天満宮参詣の記 (わ918-1)
井神寛斎 写 (『今古残葉』第28冊の内)

中河内採葉記行 (わ499-15)
山本秀夫 昭和10写 大 (岩瀬文庫蔵本の写)

大和国

藺笠のしづく (830-155)

谷森種策（善臣） 安政4成 写
大〔安政4年大和国の名所旧蹟回
覧記〕

奇縁行記 〈104-231〉
木山 聚 写（『叢書料本』第26冊
の内）〔吉野山及び大和名所遊覧
記〕

^{つきがせ}月瀬記勝 〈特1-232〉〈862-137〉
斎藤正謙（拙堂） 看雲亭蔵版 嘉
永4跋 刊 2冊 大付『梅溪
遊記』〔月瀬を有名ならしめた漢
文遊記である。上巻は上野から月瀬
に至る道案内、略図と八景図、次に
『梅溪遊記』下巻は、著者、星巖、
山陽等の月瀬に遊ぶ詩集〕

^{ばいけい}梅溪遊記 〈鶉2988〉
斎藤正謙（拙堂） 文政13成 写
大

同 上 〈特1-232〉〈862-137〉
刊（『月瀬記勝』の内）

大和廻覧道中日記 〈831-72〉
原 義胤（徳斎） 文政8成 自筆
本 中〔文政8年江戸から大和国
への遊覧記〕

大和めぐりの記 〈182-50〉
貝原益軒 京都 柳枝軒蔵版 享保
6刊 小〔京から大和への道の記〕

和州巡覧記 〈291.65-Ka183y〉
貝原益軒 京都 柳枝軒蔵版 享保
6刊 中 前書と同内容

吉野

^{えぶくろ}餌袋日記 〈106-129〉
本居大平 大阪 河内屋茂兵衛等
嘉永7刊 大〔明和9年大平17才
の折宣長と共に吉野へ遊べる 道の
記。菅笠日記と同じ折の記〕

^{おおみわさん}大峯山上之記 〈104-368〉
小林藤丸 写 大〔文化4年の紀
行〕

松花
堂 芳野道の記 〈102-99〉〈231-98〉
松花堂昭乗 加藤千蔭写 萬屋太治
右衛門刊 東都 蘭香堂蔵版 寛政
5刊 大〔寛永15年の紀行〕

吉野記行 〈わ918-1〉
松花堂昭乗 写（『今古残葉』第8
冊の内） 前書と同内容

同 上 〈わ918-2〉
写（『扶桑残葉集』第8冊の内）

^{しょうりょう}称名院殿吉野詣記 〈127-1〉
三条西公条 刊（『群書類従』巻
338, 174冊の内） 通称『吉野詣
記〕〔天文22年の紀行〕

吉野詣記 〈166-281〉
三条西公条 刊（『拾遺意行集』の
内） 前書と同内容

同 上 〈238-1〉
写（『鶯宿雑記』234の内）

^{すががき}菅笠日記 〈140-58〉
本居宣長 伊勢松阪 柏屋兵助等

明和9成 刊 2冊(合1冊) 大
〔明和9年の春、大平と共に吉野の
花見に赴いた折の紀行〕

^{はつさま}
初午の日記 (181-225)
荒木田麗女 安永6成 写 (『荒木
田麗女著述書』2の内)

都芳野花見記 (わ918-1)
写 (『今古残葉』第26冊の内)〔京
から吉野へ〕

^{めうほうざん}
遊芳山記 (わ081-4)
中井積善(竹山) 写 (『明遠館叢
書』第34冊の内)〔漢文紀行〕

吉野記行 (わ918-2)
飛鳥井雅章 写 (『扶桑残葉集』第
11冊の内)〔京から吉野へ〕

芳野記行 (わ918-2)
藤門周斎 写 (『扶桑残葉集』第13
冊の内)

吉野記行 (わ918-1)
藤門周斎 写 (『今古残葉』第33冊
の内) 前書と同内容

吉野日記 (188-33)
小山田(高田)与清 写 (『松屋叢
書』14の内)〔甲州街道から東海
道に出て吉野へ〕

吉野の記行 (わ918-1)
井神寛斎 写 (『今古残葉』第27冊
の内)

吉野花見記 (わ918-2)
加藤盤斎 写 (『扶桑残葉集』第2

冊の内)〔慶安元年吉野へ花見の
記〕

芳野道之記 (わ918-1)
釈 湧蓮 写 (『今古残葉』第36冊
の内)〔宝暦12年京から吉野へ花
見の記〕

同上 (わ918-2)
写 (『扶桑残葉集』第8冊の内)

吉野道の記 (わ918-1)
養元 享保5成 写 (『今古残葉』
第22冊の内)

長谷

^{はつせ}
泊瀬紀行 (わ918-1)
儀同三司母 写 (『今古残葉』第2
冊の内)

泊瀬記行 (124-230)
儀同三司母 写 (『桜園叢書』卷
30の内) 前書と同内容

<中国地方>

中国地方諸国にわたるもの

^{たみの}
田蓑の日記 (102-14)
衣川長秋 皇都 汲古堂 文政4序
刊 大 〔因幡から出雲へ至る〕

やつれ蓑の日記 (915.5-Ki251y)
衣川長秋 皇都 丁字屋源次郎 文
政4序 刊 大 付『美徳山紀行』
『雨滝記行』〔鳥取から出雲三保神
社、伯耆の大神山に詣てた時の紀行〕

同上 (241-118)

大阪 堺屋定七 文政4序 刊 中
付 『美徳山紀行』『雨滝紀行』

伯耆国

おおさき
大神山詣記 (108-247)
岡部春平 金築春久注 写 大

因幡国

あまたたき
雨滝記行 (915.5-Ki251y) (241-118)
衣川長秋 刊 (『やつれ蓑の日記』
の内)

隠岐のすさび (241-20) (188-109)
風水 京 井筒屋庄兵衛 宝永2成
刊 中 [宝永2年遠祖墓参のため
隠岐へ赴く和歌俳諧紀行にして島の
状況描写にすぐれ流人3代目末次平
蔵の末路をも記す]

かちみ
勝見遊覧記 (832-226)
寛政3成 写 3冊 (合1冊) 中
[寛政3年勝見の温泉へ浴せし折の
記]

みとく
美徳山紀行 (915.4-Ki251y)
(241-118)
衣川長秋 写 (『やつれ蓑の日記』
の内)

出雲国

出雲紀行 (830-174)
森 為泰 天保4~明治7成 稿本
15冊 (小本3冊, 中本3冊, 大本9
冊)
第1, 2冊 『出雲大社詣』 第3
冊 『出雲国枕木詣』 第4冊 『出

雲国佐陀詣』 第5冊 『出雲国産土
詣』 第6冊 『出雲国清水詣』 第
7冊 『出雲国大宮詣』 第8冊
『出雲国天満宮詣』 第9冊 『出雲
安来紀行』『菅原詣』 第10冊 『出
雲国旅伏詣』 第11冊 『出雲国鴨山
参詣記』 第12冊 『出雲国枕木山紅
葉狩』 第13冊 『出雲国三日記』
第14冊 『出雲国六日記』 第15冊
『出雲国三島日記』 第16冊 『出雲
国鳥上山日記』 第17冊 『出雲国鹿
聞記行』 第18冊 『出雲国阿之折紀
行』 第19冊 『石見国松川小林両家
へ送る歌』 第20冊 『出雲国地震
記』 第21, 22冊 『石見国高津詣』

出雲路日記 (107-89)
藤井高尚 文政13成 写 中 [備
中吉備津宮の祠官である著者が文政
13年2月下旬に出発し, 美作伯耆を
越え出雲大社に詣で旧3月朔日から
始る祭祀を見学して帰る往復日記]

雲州紀行 (103-210)
邗僊山 元禄3成 近世後期写
中 [漢文紀行]

かいきつだん
懐橋談 (126-16)
黒沢石斎 承応3成 写 3冊 大
[武蔵を出て難波へ至り, 兵庫, 須
磨明石等を経て備前美作を過ぎ出雲
に至る。出雲に入りて地誌を詳かに
記す]

石見国

いづみ
温泉津日記 (188-89)
飯田慎平(篤老) 広島 春魚 隅

田屋平藏等 篤老園蔵版 文政2刊
中〔文化10年2月、病氣治療のため50日間にわたり広島から石見国の温泉をめくり歩いた折の俳諧紀行〕

備中国

吉備津宮参詣の記 〈わ918-1〉
井神寛斎 写〔『今古残葉』第28冊の内〕

備中州巡礼略記 〈199-313〉
柳井重法 寛政2序刊小〔西国巡礼三十三ヶ所を擬て備中霊場を巡礼する為の道中案内記〕

備後国

こうとうせきやうそんしや
黄葉夕陽村舎紀行 〈鶯809〉
河崎 弼(敬軒) 大阪 種玉堂
河内屋儀輔 天保11刊中〔文化12年江戸から菅茶山の学舎へ至る漢文紀行〕

同 上 〈鶯810〉
京都 菱屋友七等 嘉永3刊中
前書を補刻校正したもの

安芸国

広島日記 〈127-116〉
古屋景明 写中〔元治元年征長従軍日記〕

敵島

るくおんいんどの
鹿苑院殿敵島詣記 〈127-1〉
今川了俊(源貞世) 刊〔『群書類

従』巻333, 172冊の内)〔将軍足利義満の康応元年3月4日出発同28日に帰宮した敵島詣に随従した今川了俊の紀行〕

同 上 〈238-1〉
写〔『鶯宿雑記』230の内〕

鹿苑院義満公敵島詣記 〈わ915.4-6〉
今川了俊(源貞世) 寛文6写大前書と同内容

敵島詣之記 〈166-281〉
今川了俊(源貞世) 刊〔『拾遺意行集』の内〕 前書と同内容

こころ
敵島御幸の道の記 〈138-23〉〈子-4〉
今川了俊(源貞世) 写〔『扶桑拾葉集』巻15の内〕 前書と同内容

敵島御幸の道の記 〈138-23〉〈子-4〉
土御門通親 写〔『扶桑拾葉集』巻8の内〕〔治承4年高倉天皇敵島御幸の節供奉の記〕

高倉院敵島御幸記 〈238-1〉
土御門通親 写〔『鶯宿雑記』230の内〕 前書と同内容

同 上 〈127-1〉
刊〔『群書類従』巻329, 170冊の内〕

長門国

しょうとうゆうそう
小東遊草 〈鶯2072〉
嘉永6成写中〔太宰府から長

門への漢文紀行

〈四国地方〉

阿波国

^い_や
祖谷紀行 (101-94)
菊池武矩(高州) 写大 [寛政
5年阿州西南のほとり美馬郡祖谷へ
の紀行, 挿絵あり]

伊予国

いよ日記 (104-231)
保見文陸 天保10成 写 [『叢書料
本』第15の内] [江戸から伊予松
山へ帰省の際の和歌紀行]

伊予の国道の記 (235-98)
斎藤柏樹 写中 [文久3年江戸
から伊予への和歌紀行]

土佐国

^あ_が^な_い
贖日記 (わ218-2)
波柿帯成 文化3成 写 [『土佐国
群書類従』巻103, 123冊の内]

朝倉紀行 (わ218-2)
尾池弾藏(春水) 天明2成 写
[『土佐国群書類従』巻103, 123冊
の内]

^い_そ^や_ま
伊曾山の日記 (わ218-2)
小松春盛 写 [『土佐国群書類従』
巻107, 127冊の内] [元治元年高
知から室津へ至る]

いそ湯の家つと (わ218-2)
慶応元成 写 [『土佐国群書類従』
巻107, 127冊の内]

稻荷詣の記 (わ218-2)
内田みとる 写 [『土佐国群書類従』
巻106, 127冊の内]

^い_ま^は<sub>じ^め
今初の経草 (わ218-2)
写 [『土佐国群書類従』巻105, 125
冊の内] [慶応3年今初から高知
へ至る]</sub>

うないのさへつり (わ218-2)
今村 楽 写 [『土佐国群書類従』
巻103, 123冊の内] [寛政7年土
佐東海岸遊行の記]

^え_び^す_お^と<sub>こ^の_み^ち_ゆ^き
夷男道行 (わ218-2)
写 [『土佐国群書類従』巻105, 125
冊の内] [弘化2年土佐浦勇魚取
遊覧の記]</sub>

^お_と^な_し
鳴無紀行 (わ218-2)
黒岩慈庵 写 [『土佐国群書類従』
巻101, 123冊の内] [漢文紀行]

^き_た^や_ま
北山紀行 (わ218-2)
山内豊雍 明和3成 写 [『土佐国
群書類従』巻101, 121冊の内]

^き_ん^ぶ<sub>せ^う<sub>に^も<sub>う^ず_る
詣金峰山紀行 (わ218-2)
明和7成 写 [『土佐国群書類従』
巻104, 124冊の内]</sub></sub></sub>

斎藤唱水日記 (わ218-2)
斎藤唱水 元禄16成 写 [『土佐国
群書類従』巻100, 120冊の内]

佐川の道記 〈わ218-2〉
中城暗叟 写 (『土佐国群書類従』
巻104, 124冊の内)

春水紀行 〈わ218-2〉
尾池弾藏 (春水) 写 (『土佐国群
書類従』巻103, 123冊の内) [民
情視察のため土佐全土を巡回した折
の記]

ちよくりよ
直諒紀行 〈わ218-2〉
写 (『土佐国群書類従』巻102, 122
冊の内) [天文元年高知から宿毛
へ至る]

にらふ
韭菜の山つと 〈わ218-2〉
写 (『土佐国群書類従』巻107, 127
冊の内) [文化11年大湊から香美
郡韭菜の郷へ至る]

ほうあんはくりゆう
鵬鷲柏龍紀行 〈わ218-2〉
写 (『土佐国群書類従』巻104, 124
冊の内) [嘉永6年柏島, 龍串遊
記]

みさきのみちくさ
岬巡草 〈わ218-2〉
写 (『土佐国群書類従』巻105, 125
冊の内) [嘉永5年豊岡の方丈と
いう人物が三崎へ参詣した折に随行
した時の日記]

むらつ
壱津御紀行 (136-16)
山内豊道著 宮地仲枝編 嘉永2写
大 [文化8年港浚ありし折の記]

横倉山詣之記 〈わ218-2〉
写 (『土佐国群書類従』巻104, 124
冊の内) [文政2年佐川領の横倉

宮へ参詣した往復の記]

〈九州地方〉

九州地方諸国にわたるもの

うら
浦乃しるべ (915.5-N568u₂)
中島広足 手稿本 文政6大
[熊本から長崎へ至る]

九州紀行 (210-301)
佐藤信淵 明治20写 大

春遊篇並南遊篇 (鶯1695)
石川 剛 (彦岳) 文化10成 写
大 [漢詩文紀行]

旅の恥かきすでの日記 (わ291.9-1)
燕石贅人 (富永治右衛門尉) 弘化
年間 手稿本 2冊 大 扉「西遊
日記」 [天保15年, 改元されて弘
化元年九州各国遊覧の記]

筑紫紀行 (211-546)
吉田重房 (菱屋平七) 名古屋 永
楽屋東四郎等 文化3刊 10冊 中
[尾張名古屋肥前長崎往復の紀行に
して長崎の記事最も詳しい]

紀行 (わ291-5)
吉田重房 (菱屋平七) 写 2冊
大 (『静山叢書』の内) 内題「筑
紫紀行」 前書と同内容

筑紫記行 (わ918-1)
鷹見保具 写 (『今古残葉』第27冊
の内)

筑紫紀行図誌 (ほ-68)
素言 天明6成 写 5冊 大

〔江戸から九州往復の記〕

筑紫巡遊日録 〈せ-95〉
丸山可澄 稿本 貞享2 大付
『西遊紀行』〔貞享2年江戸から
筑紫へ至る。途中の地誌、旧蹟等を
大略に記す〕

とこよちの日記 〈915.5-N568t〉
中島広足 手稿本 文政9成 大
〔長崎から熊本への紀行〕

南遊紀行 〈214-40〉〈鶯2837〉
亀井 魯 (南溟) 写 中 〔安永
4年熊本、柳川等への漢文紀行〕

のちのゆめじにつき
後夢路日記 〈915.5-N568n〉
中島広足 文政6成 手稿本 大
〔熊本から長崎間の紀行〕

ふくろう
梟日記 〈107-25〉
支考 写 中 〔元禄11年6月大阪
から海路九州に赴き同年9月下関へ
帰着するまでの日記〕

ふなじのなやみ 〈915.5-N568h₂〉
中島広足 文政6成 手稿本 小
〔江戸へ行かんと三佐の港を出たが
沖合で風浪に悩まされた折の記〕

夢路日記 〈915.5-N568y(s)〉
中島広足 文政7成 手稿本 大
〔熊本から長崎への紀行〕

ゆめ路日記 〈915.5-N568y〉
中島広足 文政7成 清書本 大
前書と同内容

豊前国

豊州紀行 〈103-161〉
貝原益軒 元禄7成 写 中 原表
紙に篤斎叢書86とあり 〔元禄7年
4月福岡荒津の宿を立ち、豊前、豊
後を歴覧し、福岡へ帰るまでの記〕

肥前国

かばしま
權島浪風記 〈W119-9〉
中島広足 自筆本 大 〔文政11年
8月長崎から舟路熊本への帰路權島
で台風に合いたる折の記〕

同上 〈W319-6〉
中島広足 題簽に自筆草稿とあり
大 前書と同内容

同上 〈119-15〉
明治29写 大

同上 〈915.5-N568k₂〉
江戸 英 大助, 大阪 秋田屋太右
衛門 天保4序 刊 大

さか
佐嘉日記 〈915.5-N568s〉〈106-89〉
中島広足 長崎 小野左右助等 嘉
永6刊 大 〔長崎から佐嘉への紀
行〕

しきおろく
使崎畧録 〈229-20〉
米良 倉 (東嶠) 写 中 付
『二月廿六日踏銅像人並主命行事』
『入京記』『出京記』『日光紀行』
〔嘉永4年熊本から長崎へ至る漢文
紀行〕

長崎

瓊浦日記 (わ081-9)
写 (『中古叢書』第74冊の内)
〔江戸から長崎へ〕

標注長崎紀行 (139-175)
図書 長久保赤水 大阪 河内屋太助等
文化2刊 2冊 大 〔明和4年漂
民受取のため水戸から長崎へ赴きし
折の紀行にして長崎の記事多く、蘭
人、唐人や異国の物産風俗を挿絵に
している〕

長崎紀行 (839-92)
長久保赤水 撰津 浅野弥兵衛等
文化2刊 大 前書と同内容

長崎行役日記 (238-1)
長久保赤水 写 (『鶯宿雑記』96の
内) 前書と同内容

肥後国

秋のやまふみ (915.5-N568a)
中島広足 (自筆本か) 文政3成
大 〔熊本付近の紀行〕

鶴鳴私記 (166-113)
木下業広 (厚潭) 写 大 〔弘化
元年肥後熊本領内の漢文紀行〕

金海山詣記 (915.5-N568k)
中島広足 手稿本 天保3成 大
〔熊本から八代への紀行〕

烽山日記 (107-133)
亀井 昱 (昭陽) 写 2冊 (合1

冊) 中 〔文化6年肥後周辺にあ
る外国船渡来を知らせるのろし山視
察の漢文の記〕

同上 (鶯3381)
写 3冊 中

薩摩国

いにしへの風 (140-21)
赤崎楨幹 寛政4 芝山持豊跋成 写
大 〔寛政3年12月9日薩摩侯真崎
加久藤へ狩せる折の記〕

遊霧嶋山記 (特7-538)
田代安定 伊藤圭介手写. 中

<外国>

權太等

甲寅唐太日記 (113-40) (特1-222)
(特1-2457)

鈴木重尚著 松浦武四郎注 日本橋
播磨屋勝五郎蔵版 安政7刊 絵・
地図入り 2冊 大 〔嘉永7年權
太への記〕

近藤重蔵巡夷録 (292.99-Ko 595k)
近藤守重著 立 嘉直写 安政4
大

終北録 (191-331)
高津 泰 (淄川) 会津 高橋氏友
千亭蔵版 安政4刊 中

東韃紀行 (144-182)
間宮林蔵 写 3冊 (合1冊) 中
絵入り 〔間宮林蔵が幕命により文

化5年再び樺太から満州（中国東北
部）へ入って探検した報告記

中国

^{こうほし}
黄浦誌 〈113-153〉
写大〔文久3年軍艦奉行山口挙
直等の上海行の紀行〕

米 国

^{あこくじようげ}
亜国上下其外日記並艸木写真
〈131-99〉

小杉雅之進 万延元成 写大
〔万延元年遣米使節に伴いし折の日
記〕

亜国条約使節日記 〈856-67〉
有無散人 元治元成 写〔『二叟問
答』の内〕〔万延元年遣米使節に
伴いし折の日記〕

環海航路日記 〈118-143〉
広瀬包章（保庵） 万延元成 刊
2冊大〔万延元年遣米使節に伴
い軍艦ポーパタン号に同乗した時の
日記〕

同 上 〈862-1〉
広瀬包章（保庵） 広瀬一孝、愛親
校写中〔『漂流記叢書』91～97
の内〕

航海日誌 〈854-54〉
石川鑑吉 文久元写 2冊 中
〔万延元年遣米使節に伴いし折の日
記〕

航米記 〈834-49〉
写 6冊大〔万延元年遣米使節
に伴いし折の記〕

航米日録 〈189-305〉
玉虫茂誼（左太夫）撰 写 7冊（合
4冊）中〔万延元年遣米使節に
伴いし折の記〕

航海日記 〈862-1〉
玉虫茂誼（左太夫） 明治3写 中
〔『漂流記叢書』91～97の内〕 前書
と同内容

^{ふたよがたり}
二夜語 〈211-96〉
加藤素毛稿 水野正信談 写 4冊
（合2冊）中〔万延元年遣米使
節に伴いし折の記〕

同 上 〈191-335〉
写 3冊 中

^{めりけん}
米利堅紀行 〈229-224〉
元治元写 3冊 中〔万延元年遣
米使節に伴いし折の記〕

欧 州

欧行漫録 〈239-119〉
市川 渡 写 6冊 中〔文久元
年幕使に伴いし折の記〕

^{おうせい}
欧西紀行 〈特1-2290〉
高島祐啓（久也） 誠求堂蔵梓 慶
応3刊 3冊 中〔文久元年12月
幕使に加わり、欧西を巡歴した折の
記。江戸一長崎一香港一セイロン一
アラビアーカイローフランスーイギ

リス—オランダ—ドイツ—ロシア—
ジブラルタル—江戸

露 国

同 上 〈特1-2313〉

写 中 合写『浪の音づれ』

欧西行記 〈831-97〉

高島祐啓（久也） 自筆本 20冊

中 前書と同内容

^{こうせい}航西小記 〈239-109〉

岡田撰蔵 写 中 〔慶応元年外国
奉行に随い英仏へ赴いた折の記〕

^{かんかい}環海異聞 〈862-1〉

16冊 大 写（『漂流記叢書』51の
内）〔寛政5年仙台の漂流民が露
船に救助され露国に滞在，文化元年
に送還される迄の経過を仙台藩の役
人に述べたもの。露国の風俗等に詳
しい。挿絵あり〕

（たぐち・えいいち 国会分館主査）

（こいずみ・きよこ 一般参考課副主査）

書名索引

あ

あがたい 贖日記	61
秋のやまふみ	64
あきゆう 秋保日記	28
亜国上下其外日記並艸木写真	65
亜国条約使節日記	65
あさぎぬ 麻衣	7
朝倉紀行	61
あさひかわ 阿山比川道之記	26
あずまがい 東貝	4
東紀行	7
吾妻紀行(詩歌入-)	8
じの 東路廻記	8
東路のつと	8
東の記行(西山宗因)	8
”(雛屋立圃)	8
吾妻の都登	8
あつまの道の記(烏丸光広)	8
”(尊海)	8
吾妻道記	8
吾妻の道の記	9
あつまのみちのき 吾孀路記	9
あつまめぐり	9
熱海紀行	42
熱海行記	42
あでらもちかた 安寺持方の記	31
阿仁の沢水	26
阿仏尼東くたり	9
阿仏尼海道記	9
あまじ 天路の橋	46
あまだき 雨滝記行	59
あまのこのすまび 白水郎ノ子紀行	20
阿弥陀滝遊覽紀行	43
あめのいわぶえ 天石笛之記	29

有馬温湯記	55
有馬山温泉記	55
有馬日記	56
有馬入湯記	56
有馬之日記	56

い

いほぬし	9
伊香保紀行	35
伊香保記	35
伊香保のくちすさみ	35
伊香保の道行ぶり	35
伊香保道之記	35
いがき 蘭笠のしづく	56
いくものうそ 伊具知濃宇曾	46
十六夜日記	9
いざよひの日記	9
石狩日誌	23
石山記行(儀同三司母)	52
”(平祐之)	52
石山月見記	52
石山の記	52
石山詣之記	52
伊豆七島日記	42
伊豆日記(富秋園海若子)	41
伊豆の道草	42
出雲紀行	59
出雲路日記	59
伊勢紀行(堯孝)	50
”(向井去来)	50
伊勢紀州採葉記	46
いせじ 伊勢路の記(加藤景範)	49
”(源 応欣)	49
伊勢大神宮参詣記	50
伊勢日記図絵	49

伊勢詣の記(神谷為政).....	50
" (扶山).....	50
伊勢まうでのにつき.....	50
伊馬まうでの日記.....	50
伊曾山の日記.....	61
いそ湯の家つと.....	61
一条禅閣兼良美濃道記.....	44
一日記.....	31
巖島御幸の道の記(今川了俊).....	60
" (土御門通親).....	60
巖島詣之記.....	60
乙巳行記.....	9
伊那の中路.....	45
稻荷詣の記.....	61
いにしへの風.....	64
犬新山家.....	29
井の頭紀行.....	37
今初の経草.....	61
祖谷紀行.....	61
いよ日記.....	61
伊予の国道の記.....	61
入間川屋らずの雨.....	35
石清水参詣道記.....	53
いわてのやま.....	27

う

羽州山形道の記.....	26
うすきり.....	20
羽相紀事.....	9
転寝記.....	9
うたたねの記.....	9
打出の浜の日記.....	10
うないのさへつり.....	61
むまやつたひ.....	10
梅が浦.....	38
浦乃しるべ.....	62
宇良の笛多幾.....	26
雲州紀行.....	59

雲遊後録.....	10
雲遊文獻.....	10

え

詠草.....	4
亦奇録.....	10
蝦夷紀行.....	23
蝦夷日記.....	23
蝦夷日誌.....	23
蝦夷の島踏.....	23
えぞのでぶり.....	23
ゑぞ道記.....	24
江戸記行.....	36
江戸近郊道しるべ.....	37
画島鎌倉諸遊記.....	39
江島紀行.....	39
江の島日記.....	39
夷男道行.....	61
餌袋日記.....	57
江沼郡山代紀行.....	46
えみしのさへき.....	23
塩松紀行.....	28
遠遊紀行.....	10

お

笈の小文.....	10
笈の若葉.....	10
奥羽名所の記行.....	25
歐行漫録.....	65
奥州筋巡見自分日記.....	25
歐西紀行.....	65
歐西行記.....	66
大神山詣記.....	59
大阪一覽記.....	55
大原記.....	54
大原紀行.....	54
大峯山上之記.....	57
男鹿の秋風.....	26

男鹿の寒風	26
男鹿の春風	26
おがらの滝	26
隠岐のすさび	59
於久のうらうら	27
おくのてぶり	27
おくの細道	10
おくのみちくさ	23
奥濃道富美	25
小島の口ずさみ	43
をしまのとまや	28
鳴無紀行 <small>おとなし</small>	61
小野蘭山先生採葉志	10
小野六所兩社の記	35
思出草	46
おもひのままの日記補遺	10
おろちの巻	27
尾張紀行	44
尾張某君侯隨從旅日記	10
温泉再遊	56
温泉名勝志	38
温泉遊草	56
温泉旅行日記	40

か

懐橋談	59
改元紀行	11
廻国雜記	11
海道記	11
甲斐日記	44
鶴鳴私記	64
笠置紀行	53
江の島 <small>かなかわ</small> 鎌倉紀行笠の蠅	38
鹿島紀行	32
鹿島參詣記	32
鹿島日記	32
鹿島立、一日記	11
河州天満宮參詣の記	56

画図西遊譚	4
霞の友	11
かすむ月星	26
片歌道のはじめ	44
勝見遊覽記 <small>かちみ</small>	59
葛飾紀行	37
勝成紀行 <small>かつしげ</small>	49
香取日記	32
金沢鎌倉紀行竝梅そのの記	39
金沢記遊	39
金沢游記	39
樺島浪風記	63
鎌倉紀行(宇多子爽)	39
”(戸田 幹)	39
鎌倉日記	40
かまくら日記	39
鎌崎入湯の記	28
神の御蔭の日記	4
蒲生氏郷紀行	11
鴨長明海道記	11
鴨長明海道之記	11
辛崎紀行	52
甲寅唐太日記	64
雁がね日記	11
川越松山之記	35
狂かほころもの記	11
河内降登の記	11
環海異聞	66
環海航路日記	65
換骨志略	29
関東海道記(源通村)	12
”(藤原雅康)	12
関東道の記	10
嚴邑紀行 <small>がんと</small>	20

き

婦鞍吟艸	4
奇縁行記	57

帰家日記	4
帰献録	12
紀行	62
紀行津々はたち	20
紀行右よし野	12
きさらぎ紀行	12
癸巳紀行	29
紀成蝦夷紀行	23
岐蘇紀行	12
木曾採葉記	45
木曾路記行	12
木曾路之記	12
紀木曾の麻衣	12
木曾の紀行	12
北蝦夷余誌	23
喜多温泉道の記	33
北山紀行	61
北山行幸記	53
北山殿行幸記	53
紀南遊囊	51
城崎温泉紀行	54
癸未紀行	12
吉備津宮参詣の記	60
驥蝨日記	12
君のめぐみ	51
紀見のめぐみ	51
九州紀行	62
九州の道の記	20
九州みちの記	20
九州道の記	20
杏庵紀行	12
狂歌旅枕	13
崎陽行稿	4
峡中記遊	44
峡中紀遊草	44
峡中半年行	45
清水寺花見記	53
遊霧嶋山記	64

金海山詣記	64
金華山記行	28
登金華山記	28
近郊紀行	37
近郊名勝文纂	37
詣金峰山紀行	61
金龍寺古曾部伊勢寺道の記	55

く

草津温泉之記	34
草津温泉游记	34
草津游艸	35
草の螢	47
草まくら	13
草分衣	29
葛巻権佐北陸紀行	44
久摺日誌	23
熊野紀行	9
熊野遊記・同名勝図画	51
くめじの橋	45
雲のころも	53

け

瓊浦日記	64
京遊紀述	53
月園翁旅日記	29
堅山難場道中記	13
元和七年九月紀行	13
兼如筑紫道記	21

こ

航海日記	65
航海日誌	65
講暇遊録	30
航湖紀勝	31
甲午御紀行	4
高子観遊記	4
庚子道の記	13

甲州道中記	45
高城紀行	34
甲申旅日記	13
甲駿道中記	13
航西小記	66
航米記	65
航米日録	65
黄浦誌	65
高野參詣記	51
高野山參詣記	51
高野日記	51
郊遊漫録	37
黄葉夕陽村舎紀行	60
故園紀行	13
小金井橋觀花記	37
游小金井橋觀櫻花記	37
小金井橋花見の記	37
小金紀行	32
小金橋に遊ぶ辞	38
五山駅程見聞雜記	13
こしの山婦美	13
御上京道記	13
扈從晃山日記	33
後鳥羽院熊野御幸記	52
小春日記	4
近藤重蔵巡夷録	64

水

西帰	13
西京独案内	53
西国順礼道芝記	21
西上記	13
最勝洞記	45
斎藤唱水日記	61
再遊紀行	13
西遊紀行	21
西遊紀行別録	14
西游紀程	14

再遊金洞石門記	34
西遊雜記	21
西遊日記	21
西遊旅譚	4
西遊旅中日記	4
嵯峨記(藤原植通)	54
" (立圃)	54
佐嘉日記	63
相模州紀行	39
嵯峨名月記	54
嵯峨遊覽記	54
佐川の道記	62
砂村記遊	38
佐渡日記	46
佐野の和多理	50
小菴 <small>きむしろ</small> 日記	4
さめざめ草	47
更科紀行	45
さらしな日記	14
更科日記	14
蓑笠 <small>まりやう</small> 雨談	47
三奇一覽	47
三行記	47
三山記略	52
三釜 <small>さんよきよう</small> 余興	38
三漁一覽	37
山道行記	4
三塔巡礼記	52
山東遊覽志	30
三波石紀行	34
山遊 <small>さん</small> 雜志	35

し

志 <small>しかまき</small> 加聞	54
使崎 <small>しきおろく</small> 嚮録	63
四季のみかり	29
しげき山本	27
七島日記	42

十国巡覽記 ^{じゅうこく} ……………	47
信濃日記……………	45
游四万温泉記……………	34
紙魚日記 ^{しぎょ} ……………	5
思夢阮車慶遊記……………	40
拾遺意行集……………	5
従行日記……………	31
十住心院心敬紀行 ^{じゅうしゆうしんぎょう} ……………	5
秋風紀行……………	43
鷺峰先生遊紀記 ^{しゆほう} ……………	51
終北録……………	64
酬夢編……………	30
出京記……………	14
春水紀行……………	62
巡島日記……………	42
春遊篇並南遊篇……………	62
順礼鎌倉記……………	40
松花堂芳野道の記……………	57
將軍義詮住吉詣記 ^{ぎせん} ……………	56
將軍義詮難波詣記……………	56
正広日記……………	14
小西遊草……………	21
上州妙義山並武州三峯山採葉記……………	30
小東遊草 ^{しょうとう} ……………	60
紹巴富士見記 ^{じょうは} ……………	40
紹巴富士見道記……………	40
勝地回覽……………	49
称名院殿吉野詣記……………	57
常毛採葉録……………	30
常野採葉記……………	30
松蓮寺紀行……………	35
城和撰諸州採葉記……………	47
諸国奇談漫遊記……………	5
諸国採葉記(大窪昌章)……………	14
”(植村政勝)……………	5
諸国採葉帳……………	5
諸州奇蹟談……………	5
諸州巡覽記……………	5

諸州めぐり……………	5
所歴日記……………	14
白河紀行……………	14
後方羊蹄日誌……………	23
心敬紀行……………	5
真光院紀行……………	14
辛巳記行, 辛巳後記行 ^{しんし} ……………	47
壬戌于役志 ^{じんじゆつ} ……………	14
壬戌紀行……………	14

す

水城行役日記……………	31
趣庭紀行 ^{すうてい} ……………	15
菅笠日記……………	57
清々日記……………	5
須加村如来堂紀行縁起 ^{すか} ……………	35
杉田日記……………	35
豆嶼行記 ^{ずしやう} ……………	43
すすきの出湯……………	27
鈴屋大人都日記……………	47
須磨日記……………	55
須磨の記……………	55
角田川遊覽記……………	37
すみたの道の記……………	37
住吉紀行……………	51
住吉まうで……………	56
すみよし詣……………	56
住吉詣……………	56

せ

清街筆記……………	27
清見寺紀行……………	43
勢州採葉志……………	49
西征日記……………	15
西北紀行……………	47
勢遊志……………	49
勢遊帥……………	47
勢陽遊記……………	49

赤水先生東奥紀行	25
関宿紀行	32
石梁遊草	30
摂西奇遊談	21
仙果浪花道中記	47
善光寺紀行	46

そ

宋雅道すからの記	15
雙玉紀行	15
相州浦賀巡覽記	39
相州三浦記行	39
総常日記	30
相豆紀行	15
澡泉前後録	42
澡泉録	41
相中紀行	39
宗長手記	15
相馬日記	32
統奥之保曾道蝶遊	25
そとが浜づたい	25
其浜ゆふ	48
尊海僧正紀行	8

た

太平山居待月見の記行	27
高雄山巡覽記	53
高尾山石老山記	36
高雄山に紅葉を見る記	53
高倉院叡島御幸記	60
多幸日記	42
但馬紀行	54
但馬湯島道之記	21
登立山記	46
旅路廻日記	15
旅日記	5
旅の命毛	15
旅のおぼえ	48

旅の恥かきすての日記	62
旅のひとつ	15
玉川紀行(平時盛)	38
" (友田次寛)	38
" (成島司直)	38
玉匣 <small>くしげ</small> 両温泉路記	42
玉津島まうでの記	51
田 <small>みの</small> 籾の日記	58
探蝦録	23
但州浴泉記	54
但泉紀行	54

ち

游千賀記	28
秩父記	36
秩父順拝記	36
中国九州紀行	21
遊中禪寺記	33
中馬紀行	15
調布日記	38
長明道記	11
陟 <small>ちよくき</small> 叱録	15
陟 <small>ちよくき</small> 咄日録	6
直 <small>ちよくりよう</small> 諒紀行	62
千代の松 <small>まつがね</small> 根	43

つ

追蘇遊録	39
つがるのおち	26
月瀬記勝	57
月の出羽路	27
都伎山日記	36
津久井日記	45
筑紫紀行	62
筑紫記行	62
筑紫紀行図誌	62
筑紫巡遊日録	63
筑紫道記	21

筑波紀行	31
遊筑波山記	31
筑波嶺日記	30
椿まうでの記	49
露の朝顔	6
鶴芝集	15

て

天塩日誌	24
てつかん 轍環録	15
出羽の道わけ	27
天橋遊艸	54

と

藤栄春の記	48
東越道の記	15
東奥紀行(山口凹巷)	16
”(長久保赤水)	25
東奥記行	25
東海紀行	16
東海道之記	16
東海游囊	16
東関記	16
東関紀行	16
東傲私筆 <small>まじり</small>	24
東行日記	16
東行筆記	16
東行別記	16
東国紀行	16
東国陣道記	17
東西遊記	6
東西遊雜記	6
東山日記	17
藤子南紀採葉志稿	51
東征稿	17
東省統録	17
東韃紀行 <small>たつ</small>	64
遠江の道の記	17

東都紀行	37
東藩日記	17
東福寺詣	39
東武再往日記	17
東北遊日記	25
東遊記	17
東遊紀行	25
東游戯筆	17
東遊稿	21
東遊雜記	17
東遊漫稿	30
十勝日誌	24
常磐日記	55
徳永種久紀行	6
とこよちの日記	63
土佐日記	21
登山觀海記	48
利根三社神靈記	30
友千鳥	40
豊宮川名残の御祓除	50

な

中河内採葉紀行	56
長崎紀行	64
長崎行役日記	64
中空の日記	17
永野氏紀行	17
なぐさのはまつと	18
那久佐の浜都登	18
なぐさめ草	18
名古屋の日記	44
夏ころも(支考)	44
夏ころ裳(本居大平)	48
夏衣	48
難波記行	55
遊難波記	55
那まよみ日記	45
並山日記	45

成田道乃記	32
鳴門日記	22
南海流浪記	22
南紀採葉志	51
南郊独歩	38
南山紀行	51
南島回日記	43
南汎録	43
南畝花見の記	37
南遊紀行（貝原益軒）	48
" （龜井魯）	63
" （高橋克庵）	30

に

にえのしがらみ	27
西蝦夷高島日記	24
西蝦夷日誌	24
にしきのはま	26
西村寒泉採葉記	50
二叟譚奇	24
日光駅程見聞雑記	33
日光紀行（青山延光）	33
" （風弦堂）	33
" （米良東嶠）	33
日光山紀行（烏丸光広）	33
" （伊達吉村）	33
日光参詣旅行記	33
日光山行記	33
日光山道之記	33
日光巡拝図誌	34
日光日記	34
日光名勝記	34
日本行脚文集	6
入京記	18
韭生の山つと	62

ぬ

ぬさ幣ぶくろ	48
--------	----

の

後午の日記	48
後夢路日記	63
納紗布日誌	24
能登路の記	46
能登遊記	46

は

梅桜日記	48
梅溪游記	57
白山草木志	44
薄游漫載	22
橋立の道のすさ美	54
はじめてあつまにいきける道の記	18
はしりゆ走湯行記	42
八丈島記	43
八丈しまめぐりの記	42
初午の日記	58
はつせ泊瀬行記	58
泊瀬紀行	58
花のしたぶし	22
花見の日記	38
播磨紀行	55
登榛名山記	34
春の曙	18
はるのかり	22
春の錦	48
春の御ふね	37
ほん汎海紀行	22
攀髯山記	34
槃遊余録	6

ひ

ひえのむらぎみ……………27
 東蝦夷日誌……………24
 常陸紀行……………32
 備中州巡礼略記……………60
 一橋第録倉紀行……………40
 ひとつもの日記……………36
 ひとよはな……………6
 尾陽総社参詣記……………44
 平泉諸遊記……………28
 広島日記……………60
 ひろめかり……………24

ふ

風塵記……………48
 風流使者記……………45
 富岳雪譜……………40
 梟日記……………63
 武甲駿遠巡回日誌……………18
 房廼邦記行……………32
 富士一覽記……………40
 覽富士記……………41
 不字賀嶺日記……………40
 ふち河の記……………43
 藤川の記……………43
 富士紀行（釈堯孝）……………40
 "（藤原雅世）……………41
 富士御覽記……………41
 登富士山記……………41
 富士登山記……………41
 藤波記……………18
 富士日記（賀茂季鷹）……………41
 "（芙蓉亭）……………41
 不二日記……………41
 富士記……………41
 不二廻家記行……………18
 富士詣行李の友……………41

富士歴覽記……………12
 藤原実富紀行……………18
 ふたくき日記……………18
 二夜語……………65
 二荒廼山裏……………34
 ふなじのなやみ……………63
 船橋記行……………32
 船橋詣記・小金記行……………32

へ

平安紀行……………18
 丙辰紀行……………19

ほ

鶡鴒柏龍紀行……………62
 宝篋院殿住吉詣記……………56
 烽山日記……………64
 豊州紀行……………63
 奉送日記……………31
 北越記……………44
 北道遊簿……………19
 北遊紀行……………44
 北陸道記行……………19
 細川幽齋道之記……………21
 北国紀行……………8
 北国記行……………8

ま

まきの朝つゆ……………28
 まきの冬がれ……………27
 まきとき
 正辰道の記……………19
 ますおき
 益興紀行……………37
 松浦の紀行……………22
 松島紀行（朴齋道也）……………28
 "（方鏡楼千梅）……………28
 "（平井行蔵）……………28
 松島行記……………28
 遊松島塩釜記并詩……………28

游松島記 (平沢元愷)	28
遊松島記 (細井平州)	29
松島日記	29
松島道之記	29
季 <small>行</small> 松の栞	36
松前紀行	24
松前游記	24
窓の明保野	19
窓の曙	19
真淵紀行	6
漫遊記談	32
漫遊稿 内篇外篇	22
漫游日記	22
漫游文草	7
漫游文集	6

み

みかべのよろひ	27
み <small>ま</small> き <small>ま</small> のみ <small>ち</small> く <small>き</small> 岬 巡 草	62
み <small>ず</small> の <small>い</small> み <small>や</small> 稚新宮	33
未曾有記	25
三十日草	48
御岳一石両山記	36
御嶽山一石山紀行	36
道の記	19
みちのく紀行	25
陸奥紀行 (堀田正敦)	24
〃 (央齋)	25
みち奥日記	19
道の幸	19
道彦七部集	15
道行ぶり	19
道ゆきぶり	22
みつのさち	38
三ツの山巡	19
美徳山紀行	59
箕 <small>み</small> 面 <small>の</small> 山遊 <small>の</small> 記	55
美濃紀行	44

三野日記	31
身延紀行	45
身延道の記	45
三保道記	36
宮川日記	50
都紀行	53
都のつと	19
都の手ぶり	53
都芳野花見記	58
妙海道の記	7

む

武蔵野紀行	36
浴陸奥温泉記	25
陸奥衝	26
陸奥の紀行	26
む <small>ら</small> 室津御紀行	62
室町殿伊勢御参宮記	50

め

恵の露	48
米利堅紀行	65

も

も <small>く</small> き 百草紀行	36
百草松蓮寺の記	36
も <small>く</small> す 藻屑	22
望月日記	20
も <small>も</small> 百たらずの日記	49

や

八雲雅藻	28
や <small>ぎ</small> な <small>が</small> く <small>て</small> 岩作長湫岩崎道之記	44
野州紀行	31
八瀬の記	53
やつれ蓑の日記	58
山城名所紀行	53
山城大和見聞隨筆	49

山菅 ^{すげ}	51
紀山菅のをかさ.....	31
大和廻覽道中日記.....	57
大和めぐりの記.....	57
山吹日記(今城高秀).....	34
" (清水浜臣).....	31
" (奈佐勝臯).....	34
山本篤慶採葉記.....	49

ゆ

游奥曆.....	26
遊記類纂.....	7
游豆 ^{とう} 紀勝.....	42
遊豆 ^{とう} 小志.....	42
遊東 ^{とう} 阪録.....	29
幽討 ^{ゆうとう} 余録.....	43
游囊 ^{のうしよ} 贖記.....	7
遊囊日録.....	7
夕張日誌.....	25
遊芳山記.....	58
遊房総記.....	31
有方録.....	7
遊毛記.....	31
遊毛奇賞.....	34
游浴伊香保記.....	35
往来 ^{ゆきあひしば} 芝.....	7
雪の秋田根.....	27
雪の出羽路.....	27
雪白河集.....	20
雪のふる道.....	27
雪の道奥雪の出羽路.....	27
雪のもろ滝.....	26
湯沢紀行.....	40
湯島紀行.....	55
但州湯島の道草.....	55
温泉 ^{ゆのつ} 津日記.....	59
夢路日記.....	63
ゆめ路日記.....	63

夢路の日記.....	20
------------	----

よ

横倉山詣之記.....	62
吉野紀行(昭乗).....	57
" (飛鳥井雅章).....	58
" (藤門周斎).....	58
芳野紀行.....	58
吉野日記.....	58
吉野の記行.....	58
吉野花見記.....	58
吉野道之記.....	58
吉野道の記(養元).....	58
" (湧蓮法師).....	58
吉野詣記.....	57
よし正紀行.....	23
四方の道草.....	37

ら

蘭山先生採葉志.....	31
--------------	----

り

理齋掃路旅日記.....	7
理齋旅日記.....	7
柳宮紀行.....	39

ろ

鹿苑 ^{ろくおん} 院殿巖島詣記.....	60
鹿苑院義満公巖島詣記.....	60

わ

わがころろ.....	45
和紀記行.....	49
和倉湯治 ^{とろし} 夢物語.....	46
和州巡覽記.....	57

著者名索引

あ

青木鳳毛 (重隆)	15
青山延光 (佩弦)	33
赤井忠行	41
赤崎慎幹	64
赤染衛門	44
秋里籬島	21
朝岡正章	44
浅香山井 (久敬)	53
安積信 (良斎)	17, 42
足利義詮	56
飛鳥井雅縁 (宋雅)	15
飛鳥井雅章	58
安達修 (清河)	16, 39
跡部良顕	35
阿仏尼	9
阿部樸斎	43
荒木田麗子 (麗女)	48, 58
有賀長伯	55

い

飯塚正重	18
飯田慎平 (篤老)	59
庵原守富	40
井神寛斎	50, 55, 56, 58, 60
惟馨	10
伊沢信恬 (蘭軒)	4
石井脩融	25
石川雅望	13
石川鑑吉	65
石川剛 (彦岳)	62
石川尚顕	13
石川清純	29
石塚龍磨	47

石出帯刀 (常軒)	14
石野広道	46
石上鑿通	29
井田貫琛妻	55
板倉勝明 (甘雨亭主人)	33
市川渡	65
一条兼良	43, 44
一万田希 (如水)	34, 35
一斎主人 (梅牙)	21
一秋	44
絲井宇源次	19
伊藤長胤 (東涯)	47, 49
井上通女 (通子)	4
今城高秀	34
今村楽 (虎成)	46, 61
岩崎常正 (灌園)	33
尹隆	54

う

植村治政	5
植村政勝	5
宇多子爽	39
内田みとる	61
宇都宮由的 (遯庵)	20
有無散人	65
雲鼓 (堀内-)	54
雲鈴 (摩詰庵)	10

え

英清	11
海老名網 (翹斎)	7
燕石賛人 (富永治右衛門尉)	62
遠藤曰人 (竹林舎)	47

お

尾池弾藏(春水) 61, 62
 央斎 25
 大窪昌章 14
 大郷良則(信斎) 7
 太田持資(道灌) 18
 大田南畝 11, 14, 37, 38
 大塚新左衛門(敬業) 46
 大槻清崇(磐溪) 14, 38
 大槻清禎(西磐) 30
 小笠原長保 13
 岡田摂蔵 66
 岡西惟中 20, 49
 岡野従(逢原) 31
 岡部春平 59
 荻生徂徠 45
 押小路実富 18
 小田切忠近(春江) 43
 小野正端(損庵) 15, 31
 小野蘭山 10, 30, 31, 46, 49, 51
 小原忠寛(鉄心) 10
 小山田与清(高田-) 31, 32, 36, 58

か

崖弘毅(熊野-) 51
 貝原益軒(篤信) 5, 9, 12, 34, 47, 48, 55
 57, 63
 海量 6
 香川景継(宣阿) 40
 香川景樹 8, 17
 香川景周(景恒) 55
 鶴眠堂 12, 19
 霞江庵翠風 27, 45
 梶野良材 49, 53
 加藤景範(竹里) 49
 加藤千蔭 32
 加藤素毛 65

加藤長房 26
 加藤盤斎(磐斎) 54, 58
 金子春経 45
 金子有斐 46
 加納諸平(柿園) 51
 樺島公礼(石梁) 7, 30
 神谷為政 50
 神屋享(筑陽・立軒) 4
 亀井昱(昭陽) 64
 亀井魯(南溟) 63
 賀茂季鷹 41
 賀茂真淵 6, 13, 19
 鴨長明 11
 蒲生氏郷 11
 烏丸光榮 10
 烏丸光広 8, 18, 33
 烏丸資慶 47
 川合孝衡(春川) 47
 河合備陽(章堯) 21
 川口長孺(緑野) 31
 河崎敬軒(弼・良佐) 12, 60
 川本貞(衡山) 44
 官松 40

き

紀貫之 21
 菊池元習(西阜) 52
 菊地駿 44
 菊池禎(衡岳) 15
 菊池武矩(高州) 61
 鬼沢大海 11, 31
 北村季文 37
 儀同三司母 52, 58
 衣川長秋 58, 59
 木下業広(犀潭・鞆村) 64
 木村蔚(裕堂) 33
 木山聚(楓溪) 57
 堯惠 8, 46

堯孝	40, 41, 50
京極高門	42
京極長高	55
玉屑 (栗本-)	4
均齋	25

<

久貝宗之 (岱)	45
楠本覺 (端山)	28
葛卷権佐 (昌興)	44
久保田見遠	24
熊谷尚之 (箕山)	30
熊谷立閑 (荔齋)	49
熊坂定邦 (台州)	14
黒岩慈庵	61
黒川春村	45
黒崎貞孝 (洗心)	32
黒沢石齋	59
畔田伴存	44

け

邨僊山	49
元政 (日政・深草-)	45, 56
兼如	21

こ

悟海	35
湖十	29
小杉雅之進	65
児玉雅 (晋庵)	15
小寺応齋	42
後藤栖鸞 (義方)	38
小林元雄	18
小林藤丸	57
小堀政一 (宗甫)	16
小松春盛	61
小宮山昌秀 (楓軒)	25, 31
湖面堂主人	4

児山紀成	23
五雄	43
五葉舎全語	39
古梁南山 (紹暎)	28
近藤守重 (正齋)	64
近藤芳樹 (田中・晋一郎)	48

さ

西園主人	25
三枝斐子 (土屋・茅淵女)	15
齋藤幸孝	37
齋藤正謙 (拙堂)	57
齋藤唱水	61
齋藤柏樹	61
齋藤彦磨 (藤原・宮川舎)	33
在融	41
坂十仏	50
坂本俊豊 (天山)	51
坂本博約	39
篠本廉 (竹堂)	53
佐竹義和	26
佐藤元知	46
佐藤信淵	21, 62
佐藤坦 (一齋)	6, 33, 37, 39
沢田名垂	29
三条公睦	53
三条西公条	51, 52, 57
三条西実隆	51
傘露	12

し

椎園主人 (峰屋・茂橘)	38
似雲	19, 48
志賀忍 (理齋)	7, 33
支考 (東花坊・西花坊-)	44, 63
下谷隠土葛郞	30
司馬江漢	4
渋柿帯成	61

清水浜臣 (月齋老人) ……	30, 31, 36, 37, 44
清水谷実業 ……	53
重以 (谷口-) ……	8
春山 ……	22
十無居士 (山崎-・北華) ……	25
松花堂昭乘 ……	57
正広 ……	14
上甲礼 ……	12
正徹 ……	18
昌東舍真風 ……	5
紹巴 (里村-) ……	40
信海 ……	36
新宮涼庭 (鬼国山人) ……	21, 54
心敬 ……	5
新楽間叟 ……	24
真龍院 (加賀宰相室) ……	13

す

菅江真澄 (秀雄) ……	23, 24, 26, 27, 44, 45
菅原孝標女 ……	14
杉本良 (樗園) ……	15
杉原燁 (半水) ……	35
鈴木重尚 ……	64
鈴木重嶺 ……	15, 20, 34, 48
鈴木半右衛門 ……	42
鈴木房輝 ……	32

せ

関龔 (赤城) ……	10
石瓦翁 ……	49
千梅 (方鏡閣-) ……	28

そ

宗因 (西山-) ……	8
宗祇 (飯尾-・三善-) ……	14, 21
増基 ……	9, 17
宗久 ……	19
宗恵 ……	54

巢雀子 ……	34
宗碩 ……	50
宗長 ……	8, 15, 41
宗牧 (谷-) ……	16
曾我景章 ……	43
素言 ……	62
尊海 (仁和寺僧正) ……	8

た

代思子 ……	37
平盛時 ……	38
平祐之 ……	52
高島祐啓 (久也) ……	65, 66
高津泰 (溜川) ……	64
高橋克庵 ……	30, 44
高橋仙果 ……	10, 47
高松重季 ……	53
鷹見保具 ……	62
多紀安長 (元簡) ……	33
滝沢解 (曲亭-・馬琴) ……	47
沢庵 ……	16, 40
田口千穎 ……	32
竹尾善筑 (次春) ……	43
武女 (白拍子-) ……	13
建部綾足 ……	31, 44
竹村立義 ……	32, 34, 35, 36
田沢義章 ……	36
田代安定 ……	64
多田義俊 (南嶺) ……	50
多田義方 ……	46, 47
立川伸 ……	13
立羽不角 (松月堂-・千翁) ……	12, 35, 38
橘春暉 (南谿) ……	6
伊達吉村 ……	28, 33
谷元旦 (文啓) ……	23
谷重遠 (泰山) ……	9
谷森種窠 (善臣) ……	57
玉虫茂誼 (左太夫) ……	65

ち

茅原元常 (虚斎)17
 釣月25
 朝叟48
 蝶夢29

つ

辻言之 (雪洞)37
 辻知篤37
 土御門通親60
 津村正恭 (淙庵)27, 38, 46

て

鉄格子波丸11

と

兔庵老人44
 膝勝成49
 膝辰之 (醒梅)16
 藤栄軒如蟹48
 道興 (准后-)11
 東条春枝5
 道生庵主人55
 道範22
 遠山景晋 (金四郎)25
 桃葉庵錦江 (馬場・正統)40
 桃隣 (太白堂-)26
 土岐頼旨37
 徳川光圀40
 徳永種久6
 徳布15
 都貢 (鷗巢-)48
 戸田幹 (它石子)39
 富田以実28
 富田大鳳 (日嶽)22
 友田次寛32, 38
 豊臣勝俊 (木下・長嘯子)9, 18, 20

頼阿51

な

中井積善 (竹山)13, 17, 58
 永井精古55
 長久保赤水25, 64
 中島広足4, 20, 22, 53, 62, 63, 64
 中城暗叟62
 長戸護 (得斎)19
 永野孫次郎17, 30, 53, 55
 中村いと50
 中村経年 (松亭金水)45
 中山高陽41, 42
 奈佐勝阜 (日下部-)34
 成石修24
 成島信通 (源・錦江・道筑)37
 成島東岳 (司直・邦之)34, 38
 南海散人4

に

西浦祐賢8
 西田直養7
 西村広休 (寒泉)50
 丹羽松斎47

の

野々村信武13
 野間友真51
 野矢常方29

は

萩原貞宅53
 白莫39
 羽倉用九 (簡堂)43
 土師熊文55
 畠山常操 (梅軒)39
 服部嵐雪48
 花房駿 (如雲)22

林鷲峯	29
林奎文房	13
林信勝 (道春・羅山)	12, 19, 55
林培斎 (糧宇・訖)	34, 41, 42
原義胤 (徳斎・得斎・正道)	25, 36, 41, 57
原正與	42
原道一 (黙斎)	7
巴凌	19
曉得 (哲阿弥)	27

ひ

久松氏 (中川久盛室)	35
一柳千古	31
瓢仙老人	49
平井行蔵	28
平尾猪之吉	18
平岩仙桂 (仙山)	9
平沢元愷 (旭山)	6, 7, 12, 22, 26, 28, 34, 35, 39, 41, 45, 48
平間長雅	48
広瀬謙 (旭荘)	21
広瀬典 (蒙斎)	7, 15, 30
広瀬包章 (保庵)	65
枇杷園土朗	48

ふ

風弦堂	33, 37
風水	59
楓川常寛雲	38
風律 (多賀庵)	5
深見作左衛門	4
福井芳麿	23
扶山	50
藤井高尚	4, 59
藤井懶斎	17
富士谷成章	52
藤門周斎	58

藤廻家寛清	18
藤森大雅 (弘庵)	31
藤原為景 (冷泉)	54
藤原雅康 (飛鳥井)	12
藤原雅世 (飛鳥井)	41
藤原経嗣 (一条)	53
藤原広泰	28
藤原植通 (九条)	54
藤原成繁	54
藤原定家	52
藤原良基 (二条)	43
撫草庵寛雲 (大西)	32, 45, 54
二日坊	19
布門 (五流斎)	56
芙蓉亭	41
古河辰 (古松軒)	6, 17, 21
古屋景明	60

へ

平秩東作 (立松・東蒙)	17
--------------	----

ほ

抱儀 (鷗嶼)	39
北条氏康	36
方明	43
法輪	36
墨庵 (大任)	10
朴斎道也	28
北圃恭	51
星千之	9
細合離 (斗南)	21
細井徳民 (平州)	28, 29
細川幽斎	17, 20
堀田正敦	24
堀正意 (杏庵)	12
堀内徽	20
本間遊清	42

ま

正辰……………19
 益興……………37
 増島固……………14
 真清田清円 (佐分-)……………50
 松井可楽……………4, 16, 17
 松井重康……………5
 松浦武四郎……………23, 24, 25
 松尾芭蕉……………10, 32, 45
 松崎復 (退蔵・慊堂)……………29, 42
 松田順之……………34
 松平定常 (池田・冠山)……………37
 松平定信……………11
 松永貞徳……………52
 松本慎思……………39
 松本文雅……………45
 間宮林蔵……………64
 丸山可澄 (活堂)……………63

み

三河口太忠 (富秋園・海若子)……………11, 41
 水谷豊文……………45
 水野正信……………65
 三千風 (大淀-)……………6
 道彦 (鈴木-)……………15
 源欣応……………49
 源光行……………11
 源秀賢……………34
 源親行……………16
 源真澄 (岡田-)……………29
 源長保……………39
 源通村……………12
 源貞世 (今川了俊)……………22, 60
 宮正葩……………42
 宮内嘉長……………29
 宮川道達 (一翠子)……………5
 三宅興道……………4, 22

三宅邦 (橘園)……………22
 宮地維則……………30
 妙海……………7
 美代子……………39

む

向井去来……………50
 武者小路実陰……………53
 村尾嘉陵……………37
 村田春海……………49

め

米良倉 (東嶮)……………14, 18, 33, 63

も

本居宣長……………51, 57
 本居大平……………18, 44, 48, 56, 57
 森為泰……………59

や

屋代弘賢……………19
 保見文陸……………61
 柳井重法……………60
 藪氏母……………22
 山内豊道……………62
 山内豊雍……………4, 61
 山岡俊明……………35, 54
 山鹿高輔 (素水)……………39
 山口凹巷 (韓聯玉)……………16
 山口吉房……………15
 山口清蔭……………34
 山崎闇斎 (嘉)……………10, 13
 山田禎 (栄祥)……………17
 山田貞実……………43
 山本秀夫……………56
 山本篤慶 (錫夫)……………49

ゆ

湯浅元禎（常山）……………16
 猶貫…………… 12, 20
 有功庵……………31
 有隣……………33
 油谷倭文字……………35
 涌蓮……………58

よ

養元……………58
 横井豊山……………23
 横山桂子…………… 6
 吉田兼信……………13
 吉田子徳……………31
 吉田松陰……………25

吉田重房（菱屋・平七）……………62
 吉田桃樹（鰲岐）…………… 6
 吉見幸和（恭軒）……………28
 吉村静軒……………48

り

立圃（雛屋-）……………8, 41, 53, 54
 柳枝軒（茨城-）…………… 9
 蓼太（雪中庵-）……………31

ろ

魯九（曇花房）……………20

わ

和久田寅（叔虎）……………40
 度会常昭……………49